

# 2023 年度 事業報告書

(ホームページのみ掲載分)

|     |                      |    |
|-----|----------------------|----|
| 13  | 組織別の活動状況             |    |
| (1) | 会議等                  | 2  |
| (2) | 委員会の活動               | 2  |
| (3) | 部会の活動                | 13 |
| (4) | 地域本部及び地域本部管轄下の県支部の活動 | 25 |
| (5) | 関東甲信地域の県支部の活動        | 41 |

## 2023年度 事業報告書ホームページ掲載 一般事業

### II 13 組織別の活動状況

#### (1) 会議等

定款に規定する会議を次のとおり開催した。

##### 1) 総会

第65回定時総会を6月15日に開催した。

##### 2) 理事会

理事会を10回(うち臨時理事会4回)開催した。議題及び理事会において審議または報告された規程類の制定・変更の内容は付属明細書を参照。

#### (2) 委員会の活動

##### (a) 常設委員会

本会の重要施策についての円滑な実施を図ると共に、常設委員会相互の連絡及び調整のため、常設委員長会議を6回開催した。会議の開催状況及び審議事項等並びに各常設委員会等の開催状況は付属明細書を参照。

##### 1) 倫理委員会

綱領、啓発及び情報の3小委員会により活動した。主な活動は次の通りである。

- ① 新・技術士倫理綱領が2023年3月8日に理事会の承認を得て正式な発効に至ったので、新・技術士倫理綱領、手引きの周知、啓発のため、九州本部、栃木県支部、金属部会、機械部会で講演を行った。
- ② 倫理事例集については、新たに創作事例を1件作成し、当会ホームページに「最近の技術者倫理事例」として公開した。引き続き創作事例に加えて事例の収集・掲載文書の編纂を進めている。
- ③ 第14回技術者倫理シンポジウムにつき、2023年5月12日(金)に「不測の時代の技術者倫理」をテーマとしてオンラインにて開催した。第15回目は2024年5月24日(金)午後、「ジェンダー平等と技術者倫理ーすべての技術者が能力を発揮できる環境を目指してー」をテーマとして機械振興会館とオンラインでのハイブリッドにて開催予定で準備を進めている。
- ④ 新しいCPD登録制度導入に伴い、研修委員会と調整しつつ、技術士倫理に関する受講証が発行されるP eラーニングコンテンツを作成し、当会ホームページに公開した。
- ⑤ 第49回技術士全国大会(愛知・中部)のCPD行事として「技術者倫理情報連絡会」を開催し、倫理委員会の活動報告、新・技術士倫理綱領の紹介、および各地域本部や技術者倫理研究会の活動紹介・意見交換を行った。
- ⑥ 月刊「技術士」に、「技術者倫理シリーズ」10編を掲載した。また、広報委員会との合同検討会議を2~3か月ごとに開催し、本シリーズの掲載内容及び今後の執筆者選定方針等について協議検討を行った。
- ⑦ 日本工学会「技術倫理協議会」に参加し、加盟する13学協会との情報交換を継続した。また、2023年12月4日(月)にオンライン接続により、第19回公開シンポジウム「新時代に生きる技術者としての科学技術に関する倫理・法・社会的課題(ELSI)を考える」が開催された。

## 2) 総務委員会

諸制度の検討、規則、諸手引きの制定、改訂、廃止の検討並びに会員による活動グループの管理等を行った。主な内容は次の通り。

- ① 2023 年度新名誉会員、フェロー、会長表彰者の審査及び推薦を行った。
- ② 活動グループの登録申請および活動報告書を確認し、問題ないものについて理事会に報告した。
- ③ 昨年度に引き続き、地域本部関連事項検討小委員会を継続し、地域本部からの提案事項など対し検討を行った。
- ④ 常設委員会等から依頼のあった諸規則の制定、変更、廃止について審議し、助言を行った。
  - ・組織改革委員会関連規程（役職員倫理規程、コンプライアンス委員会設置運営規則他）
  - ・関東地方整備局技術士評価支援 WG の活動に関する規則
  - ・本会役員の責務に関する手引き
  - ・役員等国内旅費交通費支給規則・手引き
- ⑤ 統括本部と地域の連携強化のため、ウェブ連携トライアルを実施し、その効果についてアンケート調査を行った。
- ⑥ 関東甲信地域支部長会議を開催し、今後の情報連携のため連絡窓口グループを設置した。
- ⑦ 常勤理事の公募に対する日本技術士会員参加について検討を行った。

## 3) 企画委員会

- ① 企画委員会所管の規則・手引きの再整備：企画委員会が所管する補助費関連の規則・手引きの他、通知により運用を行っている事項について、体系及び手続きの整理等を行った。また、改訂内容について周知活動を行った。
- ② 役員等国内旅費交通費支給規則の改訂：理事及び監事の定時総会への出席に伴う旅費の支給について追記した。また、役員等国内旅費交通費支給手引きにおいて航空運賃の実費精算方式での運用ができるようにした。
- ③ 各委員会からの期中における予算申請の審議：技術士資格活用委員会からの FM ラジオ継続予算申請、広報委員会から文書校正ツール導入予算申請、倫理委員会から CPD 教育 e-ラーニングコンテンツ構築に関する予算申請、修習技術者支援委員会からインフラテクコンプレゼンテーションに関する予算申請、防災支援委員会から能登半島地震災害復興支援プラットフォームでの被災地調査支援活動に関する予算申請等を審議した。
- ④ “現役若手世代” 技術士 CPD 行事補助費事前申請：今年度は 2 件の申請があり、承認した。
- ⑤ 講演会等 WEB 配信奨励金申請：今年度は 201 件の申請があり、承認した。
- ⑥ 2024 年度事業計画：各委員会等からの計画案をもとに、会員からの意見を求め、出された意見等を踏まえて 2024 年度事業計画（案）を作成した。
- ⑦ 2024 年収支予算編成：各委員会からの予算案に対し調整を行うとともに、一般会計の統括本部、地域組織及び特別会計の予算編成について審議を行った。
- ⑧ 会員拡大対策に関する活動：年会費減免措置効果分析、CPD 参加費目安額等の検討、退会理由分析、入会理由アンケートの実施、非会員に向けた HP の検討等を行った。

#### 4) 研修委員会

本委員会は「継続研鑽小委員会」、「技術系人材育成小委員会」、および「IPD ワーキンググループ」から構成される。主な活動内容は以下のとおりである。

- ① 本会主催の CPD 行事の参加者および主催組織等の双方がより円滑に技術士 CPD 行事を実施できるよう「日本技術士会 CPD 行事参加規則（約款）」を作成した。
- ② 全ての技術士が容易に技術者倫理に取組めるよう、「技術士 CPD 行事における講演内容等の e ラーニングに関する規則」および「技術士 CPD 行事の講演内容等の e ラーニングに関する視聴確認問題作成手引き」を作成した。また、e ラーニングの視聴証明書を発行するシステム（Pe ラーニング）を構築するとともに、倫理委員会の協力を得て Pe ラーニングのコンテンツを作成した。
- ③ 技術士 CPD 行事のウェブ配信等について、本会未入会の技術士（技術士 CPDWEB 登録システム利用者）の参加を可能とするため「技術士 CPD 行事の講演内容等のウェブ配信、収録及びウェブ掲載に関する規則」および同規則に係る手引きを変更した。
- ④ 上記規則の変更に伴い、技術士 CPDWEB 登録システム利用者が本会の CPD 行事に申込みシステムを構築するとともに、地域本部・県支部・部会等の CPD 行事主催者へ対応の協力を依頼した。
- ⑤ 修習ガイドブック第 3 版を 2025 年 3 月に改訂することを目指し、作業工程および作業体制を検討した。
- ⑥ 大学・高等専門学校等の高等教育機関を対象に、技術士資格への認識や取り組みに関するアンケートを実施した。また、IPD の意義や目的などを広報展開するため、アンケート結果も踏まえて具体的な PR 活動の対象や連携先の選択、効果的な PR 方法などの検討を開始した。
- ⑦ 各地域本部の修習技術者支援・人材育成組織が有する情報・スキルの共有・IPD 活動への理解のため、地域本部の人材育成担当部署との情報交換の計画を策定した。

#### 5) 広報委員会

月刊『技術士』の発刊、3 チーム編成により、記事の企画、執筆者の選定、原稿の入稿管理、原稿の校正、印刷業者との調整を行い、毎号の刊行を計画通り遂行した。

外部広報は、意思決定の効果を高めるため、専門チームの他に、広報委員全員でも検討を進め、検討の品質および戦略への受容度を高め、具体的な戦術作りの検討にも入るに至った。地域本部との連携では、地域本部が発行する機関誌を月刊『技術士』の WEB サイトで紹介し、日本各地にお住まいの会員の方々がより簡便に情報にアクセスできるよう利便性を高めた。また、ホームページは、定性的ではなく、GoogleAnalytics による分析から出てきた定量的なデータに基づき、改善を図った。そして、広報活動は本来、本委員会だけでなく、他の委員会、部会、地域組織とも連携を図って進めていくことが重要であることから、社会委員会、技術士資格活用委員会などと連携を深めた。

今期実施した主な活動は、次の通り。

- ① 会報誌月刊『技術士』の企画・編集・発行（月 1 回）を行った。そのうち下記の 2 回の特別号を発行した。また、会員の方が、本会をさらに利活用できるよう、当会の魅力的な取り組みを、お知らせや IPEJNEWS などのコーナーで紹介した。
  - ・2023 年 7 月号：トピックス「デジタル技術特集」
  - ・2023 年 1 月号：トピックス「自然から学ぶ特集」
- ② ホームページ改善を行った。GoogleAnalytics によるアクセス分析を行い、注目度の高いサイトにコンテンツを集めるなどして、当会の取り組みが今まで以上に会員や一般

の方々に伝わるよう、ホームページを改善した。月刊『技術士』の記事のオープンアクセスを専門としたページは、この改善により、12月に100件未満だった1月当たりのアクセス数が、3月末時点では600件強にまでアクセス数を伸ばした。ほか、日本各地にお住まいの会員の方々の利便性を高めるべく、地域本部が発行する機関誌を月刊『技術士』のWEBサイトで紹介した。

- ③ 外部広報は、「他の選択肢なら得られたはずの利益」についての思考を深め、本会のステークホルダーが求めている広報は何かという視点を第一に、専門チームの他に、広報委員全員で検討を進めた。現在、具体的な提案をできるまで検討が深まっている。また、広報活動は、広報委員会だけでなく他の委員会、部会、地域組織ともコラボレーションして推進していく必要があることから、社会委員会、技術士資格活用委員会などとの連携も深めた。
- ④ 新・技術士 CPD の広報は、登録証明書を求める技術士向けに、専用のチラシを作成し配布した。

## 6) 社会委員会

本委員会を構成している「司法支援小委員会」、「広報小委員会」の2小委員会及び「工事監査支援ワーキンググループ」において、以下の活動を行った。また、「防災支援委員会」、「科学技術振興支援委員会」、「技術士活性化委員会」の3実行委員会とも連携し活動支援を行った。

- ① 「司法支援小委員会」は、例年通り裁判所から専門委員等の推薦が依頼された。そこで、推薦手順に従って技術士パーソナルDB登録者の中から依頼内容に沿った適任者を選定し推薦した。2023年度の依頼件数は4件であった。近年の傾向として、裁判所からの推薦要件は、専門性が高度化している傾向が見られることから、引き続き個々の技術士の有する専門技術が活かせるようにDBへの登録事項の改善、並びに登録促進を募る必要が生じている。そこで、会員各位に対して司法支援活動の理解や協力依頼を目的とした「第5回司法支援講習会」を2024年2月29日に開催した。
- ② 「広報小委員会」は、日本技術士会会員の社会貢献活動を広く一般に周知し、技術士の地位向上に資するため、「第12回社会活動事例発表会」を2023年5月25日に開催した。また、社会貢献に関する活動を内外にアピールする目的で社会委員会のホームページの改定検討を行った。
- ③ 「工事監査支援ワーキンググループ」は、本会に依頼された15自治体の工事監査を実施した。また、会員各位に対して、工事監査技術の理解や広報を目的とした「第1回工事監査研修会」を2023年10月27日開催した。併せて、地域組織との連携を図るために、情報共有を行っている。

## 7) 国際委員会

企画小委員会、IEA小委員会、海外小委員会を設置、さらにIMechE WG、IEA対応WGを設置し、本委員会と幹事会を隔月で開催した。実績は以下のとおり。

- ① 「技術士の資質能力を考えるシンポジウム～変革する社会と国際的な人材育成の潮流に乗るために～」を6月3日に開催した。
- ② 国際活動の基本情報（海外機関の概要、連携、国際資格制度等）をまとめ、委員会内で勉強会（全5回）を開催、Pe-CPD教材として会員に公開した。
- ③ 日本の技術士の国際的な活躍に必要なコンピテンシー調査（技術士のグローバル活動行動特性調査）に向けた計画検討を行った。

- ④ 2025年迄の各種IEA対応に向けIEA対応WGを9月に設置し、IEA GA&PC Ver. 4に係るGAP分析を行った。IEA GA&PC等対応調整会議を11月および12月に開催、IEA対応WGで実施したIEA GA&PC Ver. 4に係るGAP分析結果の情報共有を行った。また、GAP分析結果をとりまとめ、APECエンジニアモニタリング委員会に諮り承認された。
- ⑤ IPEJ-JABEE(日本技術者教育認定機構)-JSEE(日本工学教育協会)間の覚書に基づき、第2回情報交換会を9月11日に開催し、各機関の状況について情報共有を行った。
- ⑥ JABEEの国際協定委員会(8/2、12/18)に参加し、IEA対応等に関する定期的な情報交換を実施した。
- ⑦ IEA(国際エンジニアリング連合)総会IEAM2023(台湾)が6月11日~16日に開催され、現地参加した。定期審査結果の審議、IEA GA&PC Ver. 4と技術者コンピテンシーとのGAP分析報告(4か国分)などがあった。
- ⑧ IEAレビューチームに参画。CIE(台湾)のレビューを開始した。
- ⑨ FEIAP(アジア・太平洋地域技術者協会連合)GAが5月に開催されるため、現地参加の準備を行っている。
- ⑩ IMechE(英国機械技術者協会)との協定に基づき、英国IMechE(英国機械技術者協会)との情報交換のためにIMechE WGを5月に継続設置した。第5回日英合同セミナーを次年度5月の開催予定で準備を行っている。

(b) 実行委員会

1) CPD 支援委員会

技術士の資質向上(継続研鑽:CPD)は、技術士法に定める技術士の重要な責務である。CPD 支援委員会は、会員のCPD 推進を支援すべく各種講演会、研修会、発表会等を企画し運営・実行する役割を担う。毎月CPD 支援委員会を開催し、計画、準備、実施、反省のPDCAを廻している。主な活動実績は下記の通りである。

- ① CPD ミニ講座(4/12、5/10、6/14、11/20、1/15)  
2023年度は5回開催し、参加者計681名。全てWEB配信で開催した。詳細は附属明細書を参照。
- ② 技術士第二次試験合格者研修会(5/21)  
機械振興会館 B2 ホール+WEB配信 参加者:157名  
第二次試験合格者に対し、寺井会長より歓迎の挨拶、寺沢事務局長より「技術士制度と日本技術士会の概要」、貴志倫理委員長より「技術士と技術者倫理」、木寺研修副委員長より「技術士CPD概要」を講演いただき、合格者からの質疑に応じた。  
また、各部会が作成した紹介ビデオ(3分/部会)により部会活動の紹介を行った。  
研修会后、機械振興会館6階会場にて合格者と部会関係者の交流会を実施した。
- ③ CPD 発表会(12/9) WEB配信 参加者:234名  
本年度総合テーマ「社会基盤」  
技術士活動の業績・研究発表の場として開催。論文応募12名(エントリー16名)のうち10名の発表者を選抜し、CPD発表会を実施した。発表時間15分、質疑5分
- ④ 新春記念講演会(1/11) 学士会館202+WEB配信 参加者:327名  
「年頭の辞」黒崎会長、記念講演「量子コンピュータが拓く未来:基礎から最先端まで」産業技術総合研究所 量子・AI融合技術ビジネス開発グローバル研究センター 副センター長 川畑史郎氏、「閉会の辞」松山研修委員長

## 2) 修習技術者支援委員会

修習技術者に対する IPD（初期専門能力開発）活動を支援する各種研修の提供を目的として「修習技術者研修会」及び「修習技術者発表研究会」を行った。

### ① 修習技術者研修会（10回）

基本修習課題である「専門技術能力」「業務遂行能力」「行動原則」の理解と習得を目指した研修を企画・実行した。主な取り組みは、「修習ガイダンス（4月）」「コミュニケーション研修」「キャリアプラン研修」「技術セミナー」「倫理事例研究」「専門技術能力（DX事例研究）」「資質・能力（問題解決事例研究）」である。

研修会は午後1時から5時までであり、当委員会委員及び技術士会会員有識者を講師として、前半に講演、後半には講師からのテーマ提起に基づくグループワークによる研究・討議を行い、その後グループごとに発表する。これを通してコンピテンシー獲得及び向上を目指すとともに将来技術士として活躍する上での基礎を築く。

2022年度からWEB研修会+会議室のハイブリッド方式で開催している。

### ② 修習技術者発表年次大会（1回）

年次全国大会は修習技術者によるプレゼンテーションの場である。本年度は中部本部にて主催された。本大会も会場&WEB形式で行われた。統括本部、近畿本部、中部本部、中国本部から選出された優秀な修習技術者及び学生5名によるコンピテンシーを重視したプレゼンテーションが行われた。最後に最優秀者・優秀者が表彰された。

## 3) 青年技術士支援委員会

45歳以下の技術士・技術士補・修習技術者を対象とした研鑽事業を定期的実施した。また、新型コロナウイルスの影響を考慮しながらも、対面開催を主体にハイブリッド開催を交えて実施した。

### ① アウトプット型の研鑽 CPD 行事（外部講師による研鑽行事も含む）を定期的開催した。特に2023年10月期 CPD 行事では、「0→1 発想アイデアソン Workshop」と題し外部組織である一般社団法人 ifLink オープンコミュニティとの共催で、CPD 行事を開催し、講演パートの技術士会ホームページへの動画公開も行なった。

また、当委員会の公式ホームページや Facebook にて活動紹介、主催行事の広報および報告を積極的に行った。さらに、当委員会で開催した、CPD 行事の開催案内及び開催報告についてはプレスリリースを行い、新聞社に取り上げられるなど技術士の知名度向上に貢献した。

### ② 合格者交流会では、令和2年度以降の第1次・2次試験合格者及び JABEE 認定者（いずれも45歳以下に限定）を対象に合格者同士の人脈形成を支援するとともに、技術士会への入会並びに青年技術士支援委員会への参画（地域本部同士の交流の活性化も含む）に向けた導線強化を図ることができた。

### ③ 拡大委員会2023においては、全国の青年委員会との意見交換及び交流を目的とし、総会、地域本部活動報告及び懇親会、テクノツアーを実施した。本企画に合わせて、令和4年度活動年鑑を制作し、関係者へ当委員会の活動について周知を行った。

## 4) 技術士活性化委員会

「基礎研修小委員会」及び「業務支援小委員会」の2小委員会並びに情報発信メンバーにより活動した。

主な活動は、次の通りである。

### ① 技術士開業研修会を開催した。

- 入門コース…2023年5月17日にオンライン配信と会場とで開催し、計116名が参加した。
  - 実践コース…2023年6月23日・24日に会場とオンラインのハイブリッド形式で開催し、計45名が参加した。
- ② 「技術支援基礎講座ープロジェクトマネジメント革新ープロジェクトを成功に導くマネジメントを学ぶー」を2023年8月23日にオンラインおよび会場にて開催し、イノベーションマネジメント(株)の社長で経営学博士を講師に招いて開催した。219名の参加があった。
  - ③ 「プログラムマネジメント実践セミナーー経営デザインを応用した技術士業務への期待ー」を2024年3月19日にオンライン配信により有料にて開催し、国の取組みについて日本プロジェクトマネジメント協会、内閣府、日本知財学会及び技術士を講師に招き会員を対象に開催した。111名の参加があった。
  - ④ 外部から依頼された技術士紹介業務について23件の依頼があった。技術士パーソナルDBに登録されている技術者に業務紹介を実施した。

## 5) 防災支援委員会

通常時の活動と大規模自然災害発生後の活動について、以下を実施した。

- ① 災害被害を軽減する活動への支援
  - ・ 第19回全国防災連絡会議(9/1)を開催し、約300名の参加者とともに「多様な技術分野から大規模災害に備える」をテーマとして討議を行った。
  - ・ 関東甲信県支部の防災連携を強化するため、9/1と3/11に第6回および第7回関東甲信県支部防災連絡会議を開催し、関東甲信県支部長、防災担当の参加を得た。
  - ・ 内閣府主催「ぼうさいこくたい2023」において屋内展示を実施した。
  - ・ 防災・減災連絡会を開催し、地域本部、県支部のSAPD作成状況と災害後活動状況について情報共有を図った。
- ② 地域コミュニティ防災への支援
  - ・ 災害復興まちづくり支援機構の一員として首都防災ウィークに参加、防災クイズ、相談会を中心とする屋外展示を実施した。
  - ・ 墨田区災害復興支援組織の活動に協力した。
- ③ 防災支援活動会員の育成
  - ・ 全国防災連絡会議(約300人)およびCPD講演会1回(約150人)を開催し、計450名以上に防災とリスクに関するCPD機会を提供した。
  - ・ 震災対策技術展(横浜)に出展するとともに、セミナーを開催した。
- ④ 大規模自然災害発生後の活動
  - ・ 統括本部災害時支援活動計画(SAPD)に基づいて、地震発災翌日に「令和6年能登半島地震災害復興支援プラットフォーム(PF)」を立ち上げ、委員会、各地域本部、各部会、士業関係団体等からの情報を継続して集約し共有している。
  - ・ 能登半島地震に伴う新潟市液状化被災地域の現地調査と意見交換会(学識者・行政関係者・技術士会)への参加要請に対して応用理学部会から専門家を北陸本部へ派遣した。
- ⑤ 防災支援継続活動ワーキンググループ
  - ・ 墨田区災害復興支援組織や災害復興まちづくり支援機構などの活動を継続している。

## 6) 科学技術振興支援委員会

4 つの小委員会で活動している。第一小委員会は主として技術士会会員向けの支援・例会の開催、第二小委員会は主として一般市民を対象とした技術士の啓蒙活動、第三小委員会は、サイエンス・インカレに代わる企画の立案及び実行、第四小委員会は科学技術週間中に開催する企画の立案及び実行を主な目的としている。

### ① 第一小委員会

- ・会員が行う理科教室、科学技術系イベント活動への支援

理科支援活動への支援申請書及び申請要領についてホームページに公開している。2023年度は、支援件数 54 件で、実施された理科教室には、小中高校の児童・生徒の合計で約 1,600 名が参加した。

- ・第 8 回理科実験事例発表大会の開催

理科教室活動等を行っている会員から、模範となる理科実験事例の発表が行われた。今回は、会場と WWEB 配信併用での開催とした。7 組の発表、デモンストレーションがあり、技術士として必要な知識・技術・プレゼンテーション能力を習得し、理科教室への活用を図っていくという目的につながった。今後も継続して事例発表大会を行っていく。

### ② 第二小委員会

- ・サイエンスアゴラへの参加申請

科学技術振興機構(JST)が主催するサイエンスアゴラ 2023 に参加申請し、今年度も採択された。技術士 2 名、女性経営者 2 名によるパネルディスカッションを実施した。サイエンスアゴラには、今後も継続して参加していく方針である。

### ③ 第三小委員会

- ・サイエンス・インカレに代わる企画の立案

新規事業となるため、今年度は情報収集に努め、地域本部の事業も参考にしながら検討を行った。

### ④ 第四小委員会

- ・科学技術週間中に開催する企画の立案

新規事業となるため、今年度は情報収集に努め検討を行った。

## 7) 日韓技術士交流委員会

韓国技術士会との「日韓技術士新協定」の締結および第 52 回日韓技術士国際会議（東京）の企画・運営を中心に活動を行った。

主なものは以下の内容である。

- ① 前年度の日韓技術士新協定案検討会議（2 回開催）における調整を経て、日韓技術士新協定 (Agreement for Activities Exchange and Cooperation between The Institution of Professional Engineers, Japan and The Korean Professional Engineers Association) の調停を結んだ。6/8（木）にオンラインで調停式を行い、両国技術士の会長がそれぞれ協定書に署名し、後日に郵送で署名済みの協定書を交換した。
- ② 10/29（日）に、第 52 回日韓技術士国際会議を、東京都の機械振興会館での対面会議と WEB 会議を併用したハイブリッド形式として開催した。日本から 53 名の参加、韓国からは 84 名の参加を得た。
- ③ 上記会議のプレイベントとして 10/28（土）に両国の会長・委員長会議、第 16 回日韓女性技術士交流会および日韓の技術士・学生座談会を機械振興会館で開催した。また、10/30（日）に研修視察（東京）を実施した。
- ④ 2025 年の第 54 回日韓技術士国際会議について北陸本部に開催を依頼し、新潟市における開催の基本計画を立案・検討中である。

## 8) 海外活動支援委員会

技術士の海外活動の場の拡大を目的に、講習会・研修会を開催、海外機関とのMOU (Memorandum Of Understanding) 取り交わしに向けた活動を実施した。5月に新型コロナウイルスが第5類に移行したのに伴い8月以降、リアルとWebのハイブリッドで月例委員会、講習会・研修会を開催した。

以下、小委員会の活動を記す。

- ① 研修小委員会：会員の海外活動に関する研修の企画、実施  
5件のセミナーを実施（2023年度事業年度附属明細書を参照）
- ② PDB運用委員会：HPのメンテナンス（維持管理）を実施
- ③ 海外対応小委員会：海外機関との覚書管理及び覚書のメンテナンス。  
韓国：MOU交換に関し、国際委員会の承認を得て、2023年12月に韓国を訪問し、(財団法人)韓日産業・技術協力財団と調印式を行った。  
ベトナム：ハノイUTC (University of Transport and Communications) とのMOU 交換について、一時中断し2024年度活動とした。  
台湾：台湾經濟部（日本の経産省相当）と協定書は締結済みであり、活動を具体化すべく、トリプリアイ(III)とのコンタクトを検討。
- ④ 内外連携小委員会：JICA/JETRO、資格活用委員会との連携  
資格活用委員会と打合せを実施、協業を検討（2024/1/15）  
JETROのセミナーで技術士に役立つセミナーを選択し、同報メールにて開催を通知

## (c) 個別規程による委員会

### 1) 男女共同参画推進委員会

女性技術者の増加やキャリアパスの構築に向け、女子学生・女性技術者支援及びD&Iの推進に関する定例イベント開催、男女共同参画の啓発、関連団体との連携活動等を検討、実施した。また、新たに広報小委員会を設置し、広報や対外活動拡充の体制を整えた。2023年度の主な活動は以下の通りである。

- ① 技術者・技術士を目指す女子学生・女性技術者向けに「技術サロン」を4回開催。2008年に開始以来、第61回を終了し、延べ参加者は548名。
- ② D&Iフォーラム、D&I学習会  
専門家を講師とするD&Iフォーラム（参加者83名）、委員及び関連委員の学びの場とするD&I学習会（参加者20名）をオンラインで開催。
- ③ 月刊『技術士』の「男女共同参画シリーズ」の担当  
「DE&Iへのトビラ」をテーマとするシリーズ「その5」を継続し、2023年度は4回掲載。引き続き、10回まで継続予定。
- ④ 技術サロン参加者から寄せられた質問を元にした「Q&A集—技術者及び技術士を目指す方へ—」第2版を増刷し配布。QRコードでの普及も開始した。
- ⑤ キャリアモデルの紹介  
委員会HPで新たなキャリアモデルを紹介した。また、「技術士キャリアモデル集」を増刷し配布。QRコードでの普及も開始した。
- ⑥ 大学技術士会や関連学会との連携  
大学技術士会や土木学会との連携を通じ、当委員会の活動や技術士制度の周知啓発の機会を拡大した。
- ⑦ 特定非営利活動法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト主催「女子中高生夏

の学校 2023～科学・技術・人との出会い～」でポスター展示やキャリア相談を行った。

- ⑧ 男女共同参画学協会連絡会の会員として運営会議に参加するほか、シンポジウムにおいて技術サロン及び技術士制度の紹介を行った。

## 2) 技術士制度検討委員会

これまで4期に渡って本委員会を設置し、日本技術士会としての考えを整理し文科省技術士分科会、制度検討特別委員会（以下「制特委」）、与党技術士議員連盟に対し提言を行ってきた。その活動の成果として、「技術士 CPD 活動実績の管理及び活用制度（以下「新・技術士 CPD 制度」）」がスタートし、本年は記載申請者拡大を目指す年であったが、結果は十分と言えないものであった。また本会が「技術士制度改革について（提言）最終報告」（2019年5月）で提案した更新制の導入は、継続的検討事項となっている。

本年は、特に IPD システムが我が国の技術者育成にとって重要であるとの認識のもとに諸検討を行い、IPD ヒアリングを継続実施するとともに、文科省に移管された IPD 懇談会に積極的に参画した。

今年度の主要検討課題と、本委員会が主体となって進めた活動を以下に示す。

- ・「新・技術士 CPD 制度」の普及促進
- ・上記の普及を通じて更新制に関する議論の深化
- ・IPD システムの導入に向けての諸活動
- ・総合技術監理、技術士補に関する検討の深化

以下にチーム毎の活動項目の詳細を示す。

### 【チーム編成と活動項目】

#### ① CPD 検討チーム

- ・技術士 CPD ガイドライン、マニュアル改訂の見直し
- ・技術士 CPD に関する諸規定の見直し
- ・新・技術士 CPD 制度に於ける記載申請者の拡大策検討
- ・更新制度実現へ向けた戦略と諸課題の検討

#### ② IPD 検討チーム

- ・IPD システム社会実装に向けての諸検討
- ・IPD 懇談会への参画と提言
- ・IPD ヒアリングの実施

#### ③ 総合検討チーム

- ・技術士制度改革全般に関して法的側面からのアドバイス
- ・技術士補制度に関する諸検討
- ・総合技術監理に関する諸検討

## 3) 技術士資格活用委員会

本委員会での主な活動内容を以下に示す。

### ① 公的活用・国際的活用推進チーム

- ・日本技術士会と大学・高専との包括契約に基づく講師派遣の仕組み構築について検討
- ・日本技術士会として共同研究を受け入れる仕組みの構築（北海道 NPO 法人）について検討
- ・技術士（CPD 認定）の優遇措置への提案について検討
- ・他の国家資格（環境計量士）への技術士資格活用の働きかけを行い、経済産業省担当部署からの問い合わせに基づき、衛生工学部門・応用理学部門・環境部門登録者の二次

試験受験に必要な実務経験について調査・検討

- ・特許法の一部改正に伴う査証人制度への技術士活用拡大について検討
- ・JICA への働きかけを活動の中心とし、具体的活動テーマ及び海外活動支援委員会との連携について検討
- ・JICA PARTNER を活用した技術士の広報活動について検討

② 産業界活用推進チーム

- ・FM ラジオを活用した技術士の広報活動を実施
- ・FM ラジオを活用した技術士の広報番組の継続及び日本技術士会公式 YouTube チャンネル開設について他の担当委員会を含めて検討の結果、両検討を打ち切り、既存の収録ラジオ番組の YouTube 化について検討を行うこととした

③ その他（地方整備局 新技術活用評価会議への技術士活用について）

- ・地方整備局 新技術活用評価会議における複数部門技術士の活用拡大について関東地方整備局へ働きかけを行うとともに、各部会長ならびに全国地域本部長に対し、本活動への協力依頼を行った
- ・関東地方整備局技術評価支援ワーキンググループの設置及び運用規則の検討を行い、3月7日理事会で承認された
- ・九州本部における九州地方整備局 新技術活用評価会議への技術士活用の働きかけについて支援を行った

④ 関東地方整備局技術評価支援ワーキンググループ

- ・本ワーキンググループの活動に関する手引き検討に着手
- ・令和6年度第1回 関東地方整備局 新技術活用評価会議における技術評価体制及び九州本部 技術評価組織への支援体制について検討

4) 組織改革委員会

2023年4月28日 第11回委員会開催。

2021年5月19日より開始された委員会活動の経緯と目標としたアウトプットを整理し、理事会に報告する『組織改革委員会・成果報告書』の内容確認を行った。

① 公益社団法人日本技術士会組織行動規範の策定

日本技術士会の経営理念とそれに基づく行動指針を策定した。

② ガバナンス適正化小委員会の活動成果

公益法人ガバナンスコードとの照合により、組織規程の整備、個々の規則類の制定・改定を行った。

③ 部会と地域組織の連携強化

部会と地域組織の組織活動の現状についてアンケート調査・ヒアリングを行い、様々な側面から連携強化をはかるべきことを提言した。

④ 組織改革小委員会の活動成果

地域組織の再編に関する検討を行い、沖縄県在住会員の所属先を九州本部へ変更した。地域組織の財政支援に関する検討を行い、拠点整備費に着目、関東甲信地域県支部への支援策を策定、実施した。

## II 13 組織別の活動状況

### (3) 部会の活動

本会の重要施策についての円滑な実施を図ると共に、部会相互の連絡協調及び部会活動の活性化に資するため、部会長会議を4回開催した。部会長会議の開催状況及び審議事項等、また、各部会の開催回数、部会における講演会及び見学会は付属明細書を参照。

#### 1) 機械部会

毎月第二金曜日午後の定例幹事会・講演会開催を活動の主軸としている。会場とWeb併用のハイブリッド開催が日常化し、全国からの参加者が日常化してきた。重点的に取り組んだトピックスとしては、講演会や土曜例会などにおいて講師からの情報提供に加え参加者と直接会話できるグループ討議の場を設けた。このような双方向コミュニケーションの活発化によって期初に掲げた全国連携統一のエンジンとなるよう引き続き強化していく。

##### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

毎月第二金曜日午後に幹事会を開催。年次大会は企画。地域連携の基盤が出来てきたのでさらなる全国レベルでの活動をさらに仕掛けていく。

##### ② 講演会

毎月実施の講演会は、4地域本部会場配信も含めハイブリッドで実施。11月は全国大会に合わせて併設機械部会を恒例開催し、地域本部との連携を強めた。

##### ③ 土曜例会

第二金曜日の定例講演会とは別に合格者歓迎会を含め2回実施した。土曜例会はセミナー形式とワークショップ形式を併用し、参加者が積極的に討議する場を設けた。

##### ④ 見学会

本年度は見送り。来年度は企画。

##### ⑤ その他

日本機械学会とイベント共催が定例化してきた。これからの社会で活躍を続けるための人材・技術者育成も意識し毎年新たな企画も取り入れて継続していく。日本機械学会とはWinWinでの活動をスパイラルアップしていきたい。

#### 2) 船舶・海洋／航空・宇宙部会

本部会は、日本技術士会で唯一複数の部門で構成されている合同部会である。主な活動として、奇数月に東京地区において定例部会を開催している。定例部会は、会場とオンライン(Teams)によるハイブリッド開催としており、40名ほどが参加している。他部会からの参加者が多いことが特徴である。

##### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

年次大会・委員会は開催せず、計6回の定例部会（5,7,9,11,1,3月に開催）にて連絡会を開いて情報共有を実施した。幹事会はメール会議を必要に応じて開催している。

##### ② 講演会

講演会は定例部会に併せて開催し、6回の講演会を開催した。併せて、30から60分の話題提供（技術講演）の場も設けている。なお、すべての講演は会員へのオンライン配信を有料で実施している。

##### ③ 見学会

2023年度は、情報工学部会と合同で、地球と宇宙における技術を題材にしたつくば見学会を実施した。

##### ④ その他

3月の定例部会で第一次試験/二次試験合格者歓迎会を併せて実施した。

### 3) 電気電子部会

電気電子部会は、原則1月、8月を除く毎月の活動として、技術士の資質向上のため講演会・見学会を開催し、CPD取得の場を提供している。

講演会では、対面とWEB配信のハイブリッド形式、地域本部へのWEB配信を行っている。また、CPD実施の相互連携を行っている電気学会のCPD活動を有効活用していただけるように開催情報を提供している。

技術士全国大会では、地域本部との連携を図るため合同で見学会を開催している。

#### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

- ・部会報告会上期（7月）と下期（12月）は会場のみで開催とし、部会報告会資料をHPに掲載した。
- ・部会幹事会を3回、ハイブリッド形式で実施した。
- ・部会運営会議を原則月1回実施した。
- ・部長、副部長、部会幹事、統括本部の常設委員会、実行委員会委員の変更を行った。

#### ② 講演会

- ・年5回の講演会を開催し、動画収録を行い「Pe-CPDシステム」で公開した（うち、1回は講師の要望により動画収録は行わなかった）。
- ・9月の講演会は、情報工学部会と合同開催として実施した。

#### ③ 見学会

- ・年5回の見学会を開催した。
- ・10月の見学会は第49回技術士全国大会（愛知・中部）部会関連行事として、中部本部電気電子情報工学部会と合同で実施した。

#### ④ その他

- ・4月に令和4年度技術士第一次試験・第二次試験合格者合同歓迎会を実施した。
- ・電気学会と隔月で意見交換会を対面/オンラインで開催した。相互連携の一環として、CPD行事を同報メールで案内し、会員相互のCPD機会の提供を図った。
- ・12月に第六回全国電気電子部会長及び部門代表者会議をオンライン開催し、8地域本部及び7関東甲信県支部より出席があり意見交換を実施した。

### 4) 化学部会

約40名の部会員より構成される幹事の皆様にて幹事会を開催して部会の運営を行なっている。具体的には、月に1回の幹事会（午前中に開催する）にて部会の運営等について相談と決定を行なっている。幹事会開催日の午後に講演会を開催して、資質向上支援を行っている。

また、幹事会開催に合わせて部会長および副部長による会議を開催して基本的な認識のすり合わせを実施している。

#### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

月例にて午前中に幹事会を開催し、午後に講演会を開催している。講演会のうち2回を見学会として割り振り、1回について新規合格者歓迎会としている。幹事会では理事会の報告、部会長会の報告および各委員会の報告等を行う。また、講演会や見学会などの準備・運営について相談と進展状況の把握と周知を行なっている。

各常設委員会および実行委員会等について、概ね全ての委員会に対して委員を選定して委員会活動を行なっている。

本年は、コロナ感染拡大防止対応のため、すべてのWEB開催とした。

## ② 講演会

午前中に幹事会を開催した日の午後に、定例の講演会を行っている。本年度は化学・金属・繊維・資源工学の4部会で合同にて開催した講演会を日曜日に開催した以外は、全て土曜日開催とした。本年は、コロナ感染拡大防止対応のため、すべてのWEB開催となった。WEB開催となったことで、遠方の講師の講演を聞くことが可能となったこと、および聴講者の講演会参加負担が低減できることがメリットである。この結果、参加者が増加したと判断している。

講演会は各月、技術士会外の講師による講演をいただくこと、技術士（主に化学部門）のそれぞれ1名ずつにお願いしている。外部専門家からは幅広い領域の講演を頂き、技術士には自身の業績廻りの話題を講演してもらっている。

また、人脈と視野の拡大を目的に、他部会との交流を推進している。本年度は金属部会、繊維部会、および資源工学部会と合同で講演会を開催し、また全国大会で合同見学会を開催した。

## ③ 見学会

例年では4月と10月に2回見学会を開催している。近年のコロナ感染拡大防止対応のため、状況により講演会とする、もしくは中止とする対応を行なった。本年度4月度は、見学を予定した施設の制限から中止とした。また、10月度は、コロナ感染拡大防止対応のため、WEB講演会に切り替えた。

## ④ その他

・化学物質管理研究会：「化学物質管理」に特化した専門知識を習得するため、偶数月に勉強会、事例研究会、セミナーを近畿支部、中部支部との間でWEB中継して開催し、その講演会の前に同じくWEB中継して幹事会を開催し入会承認、行事、講演企画等を検討している。本会を母体として立ち上げた（一社）化学物質管理士協会（Pro-MOCS）が令和元年度から実施している「化学物質管理試験」の受験（民間）資格を得るため、および専門知識を深めることを目的としている。

・日本化学会展示：化学部会の活動の紹介、技術士の認知度向上を目的に、日本化学会春季年會において展示ブース出展を行っている。コロナ感染拡大防止対応のため実施を控えていたが昨年度日本化学会第103回春季年會（東京理科大、野田キャンパス(3/21-25)）にて、ブース展示を行った。本年度において引き続き日本化学会104回春季年會（日本大学理工学部(3/18-20)）に出展した。展示において「技術士会紹介ビデオ」を活用して、技術士と技術士制度の紹介を行なった。

・次代の化学部会を担う現役世代（「若手の会」）の技術士による社会貢献活動の一環として、夏休み理科教室を開催した。また、11月には科学技術振興機構が主催するサイエンスアゴラ2023にも出展した。

・若手の会が主催する新規合格者歓迎会（一次試験合格者、二次試験合格者）を開催して若手会員の相互連携の場を提供した。

## 5) 繊維部会

今年度も新型コロナウイルスの流行は、完全な収束はみられず、主にオンラインで、また一部のみ対面・オンライン併用で、幹事会、部会全体ミーティング、CPD講演会、を行った。

オンラインないし、対面・オンラインの併用によって、全国、地域本部在籍会員の参加も得られ、多くの人に参加いただけた。なお、若手技術士交流会は、昨年度に引き続き、一般社団法人日本繊維技術士センター（以下JTCC）と連携しながら進めた。

## ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

日本技術士会理事会および部会長会議の後、幹事会を開催し、必用検討事項の討議を行な

い、更に、全国の繊維部会会員を対象に、オンライン方式で部会全体ミーティングを4回開催し、日本技術士会理事会および部会長会議、また日本技術士会全国大会の報告を行うとともに、繊維部会の体制の協議や会員間の情報・意見交換を行った。

会員から出された意見や要望は、日本技術士会部会長会議で紹介した。また、CPD講演会の企画、準備を含め、幹事会は、計9回実施した。

## ② 講演会

繊維部会主催で4回のCPD講演会をオンラインで行い、各回2名の講師から繊維関係技術ないし技術者倫理の講演をいただき、延べ219名が聴講した。

また、化学部会・繊維・金属・資源工学の4部会合同にて、8月に4部会合同講演会を開催し、繊維部会より「雁皮紙に学ぶイノベーション（八木講師）」を講演、合計131名が受講（繊維部会からは20名）した。

## ③ 見学会

コロナの完全収束がみえないため、繊維部会主催も見学会は控え、11月の全国大会（愛知）時に、化学部会・繊維・金属・資源工学の4部会による合同見学会及び専門部会を、トヨタ産業技術記念館及び名古屋国際会議場会議室で開催し、合計40名（繊維部会からは9名）が参加した。

## ④ 技術士試験1次及び2次新合格者歓迎会

新規合格者の技術士会への入会促進を図るため、技術士第一次および第二次試験合格者歓迎会を3月31日（日）に、機械振興会館日本技術士会211号会議室にて、対面・オンライン併用方式で行った。

（第1次試験合格者3名、第2次試験新合格者5名が参加した。）

## ⑤ その他

一般社団法人日本繊維技術士センターが主催する「繊維寺子屋“観て・触って・考える”体験塾」を後援の形で支援を行なった。

体験的講義形式により、複雑な繊維技術の相互関係を理解し、SDGSを学び、将来の繊維技術者を育てる試みで、繊維部会員の技術士が中心になって講義を行なった。

講義を通じて、講師を勤める技術士自身の研鑽にも繋がり、非常に有意義であった。来年以降も後援による支援を継続して行く。

## 6) 金属部会

幹事会、定例部会CPD講演に加え5回のCPD技術セミナー、四部会合同部会、地方本部との交流会も全国大会をはじめ4回行った。勉強会には「システム技術」、「企業内技術士」および「Metals DE & I」が加わった。65周年記念誌を作り、年初の65周年記念大会を完全リアルで開催した。年間講演会参加者は、前年よりも千人増加し1600名になり、YES-Metals!や幹事会、各種勉強会を入れると参加者は延べ2000人を超える。

### ①講演会

講師は金属部会会員及び招待講演者で、11回実施した。

### ②見学会

4月に横浜で「三菱みなとみらい館」、11月に名古屋で「トヨタ産業技術記念館」3月に東京で「貨幣博物館ほか」を行なった。

### ③合同部会

繊維・化学・金属・資源の四部会合同講演会を「まほろば・色彩・イノベーション」をテーマに開催した。

### ④YES-Metals!

2009年2月に発足以来14年経過し、会合も147回（2024/3現在）を重ねる。毎回20～30名の参加がある。

⑤金属部会 CPD 技術セミナー

5 月歴史金属学、7 月熱処理技術、9 月金属先端技術 2、10 月独立開業 2、2 月技術者倫理とほぼ隔月ペースで開催中。毎回 3 人の講師で 80~150 名の参加者がある。

⑥65 周年記念誌の発行。60 周年以降 5 年間の活動記録を 148 ページの冊子にまとめた。実質 7 月~9 月の短工期で作りを上げた。印刷版とオンライン版がある。

⑦部会勉強会の実施

4 月~5 月 CPD 登録勉強会、6 月~「企業内技術士」勉強会、5 月~「Metals DE & I」勉強会を実施。毎回二十人強が参加する。

⑧ 地域本部部会員リアル交流会（中国 1 回、中部 1 回、全国大会 1 回）実施。

⑨ 公益社団法人日本金属学会との共同企画で、学会誌「まてりあ」に 2 月より隔月で金属部門技術士紹介記事の連載を約 2 年間の予定で開始した。

7) 資源工学部会

2023 年度の部会活動の目標として下記 4 項目を掲げて部会活動を行った。

- \* 資源工学技術士の入会促進
- \* 会員の継続研鑽への貢献
- \* 地域本部との連携強化
- \* 技術士資格の活用拡大

① 入会促進

合格者歓迎会、CPD 講演会を通じて新規部会員の入会促進を図った。新規合格者に対して講演会参加費を 1 年間無料とする優遇策を導入した。2023 年度 1 名の新たな資源工学技術士の入会があった。

② 継続研鑽への貢献 1（講演会）

2023 年度、計 10 回の講演会を開催した。この内 8 月は金属部会、繊維部会、化学部会との合同講演会であり、12 月は応用理学部会と共同開催として実施した。講演内容は、会員或いは有識者の講師による講演（質疑応答を入れて 90 分程度）であった。講演会は全て機械振興会館での会場開催に加えて Web 配信を併用したハイブリッド方式で開催した。演題はカーボンニュートラル、再生可能エネルギー資源、資源リサイクル、地球環境等に関するものであった。

③ 継続研鑽への貢献 2（見学会）

2023 年 5 月 26 日、千葉県南関東ガス田天然ガス鉱山、ヨウ素製造工場の見学会を実施し、23 名の参加があった。

④ 地域本部との連携強化

2024 年 3 月 12 日、室蘭工業大学 板倉賢一特任教授・名誉教授を招聘して北海道札幌会場から講演会を開催し、138 名の参加があった。

⑤ 技術士資格の活用拡大

技術士資格の活用拡大について部会の意見を集約して、官公庁に働きかけるための検討を行った。具体的活動は 2024 年度に実施する予定である。

⑥ 幹事会、合格者歓迎会

2023 年度、講演会に引き続き 5 回の幹事会を開催した。幹事会の内容は理事会報告、常設委員会委員からの報告等による情報交換、意見交換、部会内必要案件の討議であった。4 月に合格者歓迎会を実施し 2 名の二次試験合格者の参加があった。

8) 建設部会

①年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

毎月 1 回の割合で Web 会議併用の幹事会を開催し、理事会報告や懸案事項の協議を通じ

た意見交換を行い、部会の意見を理事会等へ反映した。

幹事の大半は常設委員会や特別委員会、実行委員会の委員として、また、個別規定による委員会の委員として参画し、各委員会と部会との意思の疎通を図っている。

部会には企画委員会、研修委員会、広報委員会を設け、部会への意見照会等の審議、CPD行事の企画運営、広報活動を行った。

#### ②講演会

講演会の企画運営は部会研修委員会が行い、講演テーマおよび講師の選定、講師との折衝、当日の司会等について、担当者を決め実施した。

技術者倫理、DX、ICT/BIM/CIM、都市トンネル、防災・減災など多岐に亘る分野の講演会を計7回開催し、Web参加を含め総勢1,300名程度が参加した。このうち12月は定例化している講師を土木学会から迎え講演会を開催した。今年度はWeb方式併用の講演会を開催し、今後も同様の開催方法で講演会を充実していく方針である。

#### ③見学会

8月に長野県支部と合同で地附山地すべりの対策現場と千曲川洪水の災害復旧工事現場の見学会を実施し、また1月に南摩ダム建設現場の見学会を実施し各々41名、22名が参加した。

#### ④その他

コロナ禍の影響で中止していた建設部会主催の技術士二次試験合格者祝賀会を6月24日に開催し14名の合格者が参加した。なお令和2年～令和4年の合格者を対象に開催した。関東甲信地域県支部代表者との意見交換会を10月27日に開催し、継続的な意見交換およびCPD活動の連携について確認した。

技術士全国大会（愛知・中部）において、11月17日に地域本部建設部会との意見交換会を開催した。各地域本部の活動状況に加え、建設部会の運営方針、活動状況、技術士制度検討・資格活用委員会での検討状況を報告し、情報共有した。また建設部会と地域本部との連携について意見交換を実施した。

### 9) 上下水道部会

資質向上のためCPD（継続研鑽）の場（講演会・見学会）の提供を中心に活動した。講演会の開催は、通常は主に平日の夜間、第一次・第二次技術士試験合格者歓迎会を併催した場合は、土曜日とした。

新型コロナウイルス感染症が5類移行後も、講演会や幹事会はオンライン方式を併用したハイブリット方式により開催した。講演会での会場参加者は20名前後であり、オンラインでの参加が多く、全国各地から参加があった。

#### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

全国大会に併せて部会主催の講演会を毎年開催しており、名古屋大会では中部本部生命・環境系部会の協力を得て開催した。

幹事会への参加呼びかけは、同報メール及びCPD行事案内で行っており、毎回地方から幹事以外の複数の参加者があった。なお、地域本部所属2名が幹事として活動している。

委員会活動における委員は幹事の中から選出し、各委員会から要請に対して、部会として協力を行った。

隔月開催している幹事会では、講演会、見学会等の企画や結果分析、重要事項の審議及び理事会、部会長会議、各委員会の報告を行った。

#### ② 講演会

講演会のテーマは、専門分野以外にも技術者倫理や海洋調査などにも広げ、6回開催（中国

本部からの WEB 中継 1 回を含む) した。

会員増強を目的として、上下水道部門の一次・二次試験合格者は、合格後一年間は講演会の会費を無料とした。

### ③ 見学会

船橋市高瀬下水処理場（船橋市高瀬町 56 番地）の見学を行った。この処理場は市内最大の処理区を対象に窒素・リンの高度除去を行う嫌気無酸素好気法(A2O 法)で運転されており、消化ガス発電も実施されている。21 名が参加した

## 10) 衛生工学部会

2023 年度の部会活動は、CPD 行事を中心に部会員の継続研鑽を支援するとともに、地域本部との連携をはかりながら各部会員の部会活動への充実・発展を推進することに努めた。

### ① CPD 行事：講演会

講演会については、4 回開催を実施した。内容的には「自然エネルギー活用」「パンデミックでの実体験考察/意見交換会」「脱炭素化の取組」の専門分野に関する講演と、「地下鉄サリンのテロ事件」の経験を踏まえ、不測の事態へ対応できる心構えを勉強した。

### ② CPD 行事：見学会

見学会については、2 回開催を実施した。見学先には建築物環境衛生管理の専門分野の方にはお馴染みの、空調・衛生設備分野のトップランナーである「高砂熱学工業」の研究施設と、廃棄物・資源循環の関係で「グリーンサイクル株」の家電リサイクル工場を見学した。この見学会は、全国大会との併用企画として開催し 6 都府県の部会員が参加した。

### ③ 幹事会、部会（全部会員対象）

幹事会においては、部会行事の方針・具体計画・地域連携等を協議して、部会員への具体的支援策を検討し環境づくりを目指すこととしている。また、今年度より幹事会幹事に地域本部の部会員を招致し、部会連携の拡大を進めている。

全体部会においては、部会員に対し各委員会報告・行事計画等を報告周知し、意見交換による具体的な相互理解を推進することとした。

### ④ その他

2023 年度は、部会員交流の場として有志による「京都研修旅行」を実施して“歴史的風土及び産業遺産等を訪ねる”研修を行い、各所での気候風土等の調査を含め「楽しみながらの自己研鑽」で、生き甲斐再発見の旅を実施した。

## 11) 農業部会

### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

部会員の幹事登用を進め、幹事が分担して部会活動・委員会活動を行っている。中国本部・九州本部からも幹事に就任し、講演会の地域本部への講演会の配信の円滑化等に努めている。また、講演会講師の依頼、技術士（CPD 認定）の活用の働きかけ等、農林水産省との連携にも努めている。2023 年度末で幹事は理事、部会長、副部会長を含め 60 名である。

### ② 農業部会 40 周年記念誌の発刊

幹事を中心とした編集委員会で編纂作業を行い、2023 年 12 月 9 日に発刊した。2011～2020 年度の活動記録、専門科目の再編、CPD 教材作成、他部門との交流、地域本部との連携、鳥取県鳥獣技術士の名称変更、部会の運営改善等を掲載している（全 141 ページ）。

### ③ 地域本部との連携

6 月に九州本部所属幹事と活動状況や講演会等について意見交換（対面）を行った。11 月全国大会（名古屋・愛知）では、参加した農業部会員が交流会に集合し、本部や地域本部の

活動状況の情報交換、講演会への遠隔参加呼び掛け等が行われた。

#### ④ 講演会

5回の講演会を開催し、主催会場及び地域本部・県支部の遠隔会場に加え、個人配信（会員）を行い、毎回約60名の参加を得た。講演録画のHP掲載、講演資料のペーパーレス化を進めた。12月に生物工学部会と共催講演会（5年目）を開催し、それぞれの専門的視点からの質問や意見交換が行われた。

#### ⑤ 見学会（埼玉県下）

10月5日に20名が参加し、朝日アグリア（株）関東工場（神川町）、六堰頭首工管理事務所（深谷市）、埼玉県農業技術研究センター（酪農担当、養豚・養鶏担当）（熊谷市）、深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム（深谷市）を訪問し、埼玉県における高品質な有機肥料の製造、農業用水の供給、飼養管理方法や繁殖技術開発、ブランド畜産物への取組、都市農村交流等を学んだ。

### 12) 森林部会

部会活動は、CPD講演会を中心にWebシステムを活用し、森林部門技術士会との覚書に基づき、交互開催を原則として実施した。また、毎年4月に実施している特別講演会後の懇親会の場を活用して、技術士試験森林部門の第一次試験合格者及び第二次試験合格者の歓迎会を実施するとともに、技術士会統括本部が開催する合格者ガイダンスに積極的に参加した。

#### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

年次大会（部会総会）は、4月10日にWeb参加者を含め、部会幹事の出席の下に開催した。

2023年度の部会幹事会は年5回実施し、部会幹事が委員として、参加している常設委員会及び実行委員会の報告を含め「日本技術士会（統括本部）の動向」や「森林部門技術士の活用促進」等について報告し、必要な協議を行った。

#### ② 講演会

講演会は5回実施し、総勢601名が参加した。林業・林産、森林土木、森林環境の各専門分野における外部講師等を依頼し、実施した。なお、9月末に札幌市で開催したCPD講演会については、日本技術士会北海道本部と連携し、協力（共催）行事として実施した。

#### ③ 見学会

北海道在住の部会会員が中心となって、北海道大学苫小牧研究林や白老町にある「ウポポイ（民族共生象徴空間）」を訪往し、見聞を広めた。

#### ④ その他

・契約方式の変化（総合評価方式の導入等）に対応した技術士の活用、継続研修（CPD）の積極的評価について、10月に発注官庁である林野庁や環境省等に対し陳情を行った。

・会員に対しては、ホームページ及び同報メールにより講演会の案内、森林・林業行政の動向、日本技術士会の動き等に関する情報提供を適時に行い、その内容の拡充を図った。

### 13) 水産部会

部会活動は、CPDの場を提供する講演会を中心に実施した。部会主催の講演会は、参加しやすく予定が立てやすいように固定化した奇数月の第2土曜日として開催し、Web配信の併用により中国本部への中継及び個人配信も実施した。技術士試験水産部門での第一次試験合格者及び第二次試験合格者の歓迎会を実施し、新規会員の参加を促進するとともに、生物工学部会との合同講演会時には懇親会を開催し、他部門の技術士との交流を深めた。

#### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

部会年次大会は5月に開催した。決算報告を中心に活動の総括を行い、次年度の活動計画に

についても提案・議論を行った。

幹事会活動は2ヶ月毎の講演会開催時に併せてWeb併用で行った。理事・部会長・各委員から理事会報告、部会長会議報告、各常設・実行委員会報告を行い、それらに対応して必要な協議を行った。

## ② 講演会

例年通り2ヶ月毎に講演会をWeb配信併用により開催した。水産に関する専門家を招き講演を行い、講演後に講演者との質疑応答などの自由討論を行った。さらに、講演を録画しCPD講演内容のHP視聴コーナーにも掲載した。生物工学部会との合同講演会、北海道本部の北方海域技術研究会との合同研究発表会など、他部門、他地域との合同講演会を実施した。

## ⑥ 見学会

令和5年度は、新型コロナの影響で開催を見合わせた。

## ⑦ その他

ジャパン・インターナショナル・シーフードショー（東京ビッグサイト）において無料相談ブースを開設し、3日間で延べ21人の技術士が窓口を担当した。技術士の活動紹介のパネルを掲示するとともに、対応内容は養殖・加工などの水産技術に関する指導や技術士試験の紹介等を行った。また、セミナーも開催し2名の部会員が技術紹介を行った。

水産部会のアウトリーチ活動の一環として、水産に関わる情報誌「水産界」に技術紹介として部会員がリレー執筆を行った。また、日本水産学会水産教育推進委員会、（国研）水産研究・教育機構、（公財）農学会に委員を派遣するとともに意見交換を実施した。

## 14) 経営工学部会

新型コロナウイルスの分類が5月に5類に引き下げられたことで会場参加が可能となり、また、これまでのweb参加も生かしたハイブリッド開催を実現できた。あわせて会場では人脈構築のための交流会も復活できた

### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

例会は7回、幹事会は例会日前を中心に7回開催し、会場とwebのハイブリッド開催を基本として実施した。例会では理事会・部会長会議・委員会の報告を行い情報の共有を図った。事業・収支の報告・計画を議案とした年次総会は6月にwebでの書面決議、ハイブリッド開催し147名（会場25名、web122名）の参加を得た。本部委員会活動には、常設委員に7名、実行委員他に11名が参加している。

### ② 講演会

例会、勉強会として計5回、「実務研究」「業績発表」などテーマを設けてハイブリッド開催し、延べ546名の参加を得た。講師の了解を得た講演は収録し、Pe-CPDからのHP視聴に7本提供している。5月には令和4年度一次・二次合格者合同歓迎会を兼ねて講演・討論会をハイブリッド開催し、合格者19名を含む48名（会場35名、web13名）の参加を得て交流を図ることができた。

### ③ 見学会

3年ぶり見学会でJAXA 筑波宇宙センターとアサヒビール茨城工場を訪問した（11/9、30名参加）。各々の組織・施設の特色ある取り組み、製造・管理手法などの知見を得た。

### ④ その他

日本経営工学会、日本IE協会との経営工学三団体連携活動として、「技術士を目指そう説明会」（東京：12月）の共催、テーマ講演会（2月）についてはハイブリッド開催した。

地域との連携活動として、11月の名古屋全国大会に併せ、昨年引き続き経営工学部会合同専門部会を中部本部との共催として会場開催した。5地域本部から22名の参加を得、地域

連携の継続的な活動ができた。また今後もより一層の連携および各地域活動活性化を目指し、毎年開催を申し合わせた。

#### 15) 情報工学部会

情報工学部会の活動の主目的は、部会員の継続研鑽とヒューマン・ネットワーク構築の支援である。部会運営は、原則として月1回の月例会(金曜日 18:30~20:00)と月1回の幹事会(月曜日 18:30~19:30)を基本とし、イベントとして、年1回の総会、技術士全国大会併設の特別部会、情報処理学会と連携した CPD コラボレーション(講義とワークショップ)等を実施している。2023年度は、計11回の部会を開催した。

##### ① 部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

5月19日に総会を開催し、事業報告、会計報告、役員選挙結果報告及び講演会を行った。11月17日には、技術士全国大会(愛知・中部)に併設した特別部会(講演会)を開催した。幹事会はほぼ月1回、計10回開催した。また委員会活動は、常設委員会に6名、実行委員会に9名、個別規定委員会(選挙管理委員会を含む)に9名、計24名(延人数)の部会員が委員として各委員会活動に参画した。

##### ② 講演会

2023年度は、10回の講演会を開催した。この内、5月は総会を兼ねて実施し、7・11・3月は土曜日の午後を利用し情報処理学会との(覚書に基づく)CPD コラボレーションとして講義とワークショップを実施した。4月21日は、第一次・第二次試験合格者の合同祝賀会を兼ねて実施し、多数の新合格者が参加した。9月27日には電気電子部会との合同部会を開催し、部会間の連携・交流を図った。Web中継は、地域本部からの希望に基づき9月に実施、4・5・6・8・9・11・2月には個人会員向けに実施し、全国の部会員の参加の便宜を図った。(4・5・9・2月は対面とWeb中継のハイブリッド形式)

##### ③ 見学会

1月20日に船舶・海洋/航空宇宙部会との合同見学会を開催し、部会間の連携・交流を図った。

##### ④ その他

・新合格者・JABEE 修了者に対して1年間有効の部会参加費1,000円割引を実施し、部会参加の便宜を図った。

・情報処理学会と連携し(覚書を締結)、高度IT人材育成等について取組みを進めている。2018年度合意された連携内容(認定情報技術者(CITP: Certified IT Professional)制度における技術士(情報工学)資格の活用等)に基づき、今年度も継続して「技術士(情報工学)を対象とした認定情報技術者(CITP)資格の審査及び申請料の一部免除」が実施された。

#### 16) 応用理学部会

応用理学部会は、基本的には毎月定例会(幹事会及び講演会)を開催し、会員及び一般の専門技術者に継続研鑽の場を提供している。多分野の専門技術者が集合している部会の特徴を活かし、物理及び化学、地球物理及び地球化学、地質等の専門領域のテーマに加えて、幅広く興味深いテーマの専門講師を招いて、講演会を開催している。

##### ① 部会における年度大会・委員会活動・幹事会

5月の年度大会は、ハイブリッド方式で開催し、年間活動計画を決議した。定例活動は、毎月第3火曜日(12月は土曜日午後実施)とし、3月(年度末)の中止を除き、幹事会(省略する月もあり)、定例会を実施した。幹事会では、講演会企画および運営の他、理事会、部会長会議、および本部各委員会から依頼された討議事項などを話し合った。

定例会は講演会（見学会1回を含む）を11回開催した。

## ② 講演会

合計11回の講演会を機械振興会館とWeb併用のハイブリッド方式で開催した。そのうち4月は技術士試験合格者2名の発表講演、10月は部会技術士（3名）による発表講演会、10月は全国大会併設「応用理学部会 in 名古屋」を中部支部本部と共催して行い、12月は資源工学部会と共同講演会、をそれぞれ開催した。

## ③ 見学会

本年度は8月度（9月2日）に神奈川県立生命の星・地球博物館の見学を平田大二元館長の案内で行った。

## ④ その他

講演HP視聴登録 9件（自然災害に対する安全指標など）。

## 17) 生物工学部会

本年度も、業務を創出しそれをこなせる人材を育成するという施策のもと、部会発足当初からのスローガンである「いつ来ても楽しい生物工学部会」の実現をモットーに、次の部会活動を進めた。

### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

幹事会を毎月（合計12回）開催し、講演会、夏季施設見学会、新合格者顔合わせ会の企画など、部会運営に関わる協議をおこなった。

10月の例会を年次大会と位置づけており、本年度も地域間の連携を加速するべく、近畿本部部会を主体とする講演会を実施した。

関連学会開催に合わせた技術士全国交流会を、日本農芸化学会 2024年度大会（創立100周年記念大会）に合わせて、3月26日に開催した（参加者：12名、北海道地区、九州地区を含む全国各地から）。

### ② 講演会

主催例会・講演会を7回開催した（うち1回は農業部会との共同開催）。例年6月におこなっている業績発表会（第27回）の演題数は、特別講演1、口頭発表11（一般講演7、ショートトーク4）、紙上発表3の合計15であった。

### ③ 夏季施設見学会

9月15日にキリンビバレッジ株式会社 湘南工場（神奈川県高座郡寒川町）を訪問した。生物工学部門だけでなく他部門からも参加があり、合計30名の参加者であった。2班に分かれてキリンビバレッジの主力商品である「午後の紅茶」の製造工程をパネル展示や映像により見学した。見学後、ストレートティー・ミルクティー・レモンティー3種のテイastingを体験した。さらに、生茶リッチおよびおいしい免疫ケアについても追加で試飲体験を実施頂いた。加えて、農業部門の小久保 健 氏（キリンホールディングス株式会社）より、プラズマ乳酸菌の研究開発についてご講演頂いた。

### ④ その他

- ・第一次試験新合格者顔合わせ会を、東京会場（機械振興会館）、大阪会場（近畿本部会議室）、ならびにオンラインとのハイブリッド形式で、4月8日に開催した。
- ・第二次試験新合格者顔合わせ会を東京会場（機械振興会館）とオンラインとのハイブリッド形式で8月26日に開催した。
- ・外部への広報活動として、日本農芸化学会（3月）の大会において、日本技術士会ならびに生物工学部会の活動を紹介するリーフレット配布をおこなった。
- ・CPD教材の制作を目的として、8月26日（西園 啓文 氏）ならびに3月8日（大島 敏久

氏)の講演を収録した。

- ・農業部会との連携行事として、合同講演会を1回、生物工学部会の主催で12月9日に開催した。
- ・水産部会との連携行事として、合同講演会を1回、水産部会の主催で1月13日に開催した。
- ・製品評価技術基盤機構(NITE)との連携・協力として2021年1月より「連携だより」を発行しており、今年度も継続した。

#### 18) 環境部会

2023年度の環境部会の活動は、毎月第4木曜日に以下の四区分で行事をすべて、運営会議はWEB(Teams)で、講演会は会場(機械振興会館)+WEB中継で実施した。

- ・基幹行事：年会、技術交流会、歓迎会等、開催月を決めて実施する年間必須行事
- ・定例行事：上記以外に幹事の企画提案に基づいて実施する講演会、見学会等の月次定例会
- ・共催行事：技術士会の他の部会・地域本部、或は学協会の主催する講演会等を共催
- ・運営会議：毎月開催する行事内容の企画を中心とした幹事会

##### ① 部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

年会は、議案を部会HPに掲載し、メールでの質問受付、メールでの回答とした。

幹事会は、具体的な活動内容を企画、準備のため、毎月第4月曜日18:30~1時間Teamsで実施した。また、常設・実行あわせて11の委員会に幹事が委員として参画し、運営会議において状況報告を行うことで情報を共有した。

##### ② 講演会はすべて会場(機械振興会館)+WEB中継で実施した。

##### ③ 見学会 杉並清掃工場(東京二十三区清掃一部事務組合)にて、受付、工場概要説明、ビデオでごみ処理の流れを理解、工場・設備見学、説明室に戻り、質疑応答(工場技術課長・課員、参加者12名)

##### ④ トピック的な活動

部会員のネットワークづくり、「実践型CPDを通じた部会の活性化」ディスカッション会合を実施した。

- ・8月22日：参加者12名：テーマ：気候変動、生物多様性、資源循環。
- ・12月21日：参加者15名：テーマ：気候変動、生物多様性、資源循環  
社会課題への対応、実践事例の紹介、討議

#### 19) 原子力・放射線部会

2023年度の原子力・放射線部会では、2022年度までのコロナ禍の影響はほぼ収まり、概ね予定通り活動を推進することができた。

##### ① 年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

全体会議を6月23日にWeb開催し、2022年度の活動を報告するとともに、2023年度の活動方針を説明、意見交換を行った。幹事会を面着及びWebで6回開催し、方針に沿った具体的活動の進め方、企画内容、対応方針等について議論した。

##### ② 講演会等

原子力・放射線部門の技術士として学ぶべき項目として、「RI製造研究の現状と将来展望—RIによるがん治療法開発を中心に—」、「日本のエネルギー安全保障と原子力」などをテーマにオンラインで計6回開催した。上期の3回はWeb開催としたが、下期の3回はコロナ禍の終息状況を踏まえ、面着及びWeb併用(ハイブリッド)とした。

##### ③ 見学会

1月17日、Web見学会に向けて、理化学研究所放射光科学研究センター大型放射光施設「SPring-8」での撮影会を実施した。2022年10月5日に実施した檜葉遠隔技術開発センター（NARREC）の見学会の経験を活かし、効率、質の大幅向上を図ることができた。2024年6月公開を目標に動画編集中である。

#### ④ その他

技術士制度の学生への認知度向上と受験奨励のために、原子力関係の学科、研究機関のある6大学に対して、技術士会と原子力・放射線部会を紹介する説明会を実施した。また、同様の目的で昨年に引き続き日本原子力学会春の年会に出展した。多くの来場者を迎え好評であり、多くの学生や若い技術者の受験意欲を確認できた。出展の対応を通じ、コロナ禍で近年低調であった部会員同士の交流も図ることができた。

さらに、原子力、放射線に関する正しい知識の普及のため、原子力学会が進めている学校教科書のレビュー活動に協力し、コメント、提言を取りまとめ報告書として発刊した。

### (4) 地域本部及び地域本部管轄下の県支部の活動

本会の重要施策について円滑な実施を図ると共に、地域本部相互の連絡協調及び地域本部活動の活性化に資するため、地域本部長会議を4回開催した。地域本部長会議の開催状況及び審議事項等、各地域本部等での総会等の会合の回数、地域本部等における主な講演会等及び見学会は附属明細書を参照。

#### 1) 北海道本部

2024年度に開催する技術士全国大会（札幌・北海道）に向け実行委員会を立ち上げ、2023年7月4日及び2024年3月18日に委員会を開催した。また、技術士の知名度向上、会員の継続研鑽支援等の活動を継続して実施している。

##### ① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・2023年7月12日(水)に第58回年次大会を会場とオンラインのハイブリッド形式で行った。

・本部長を含め30名で構成される役員による本部役員会を4回（第3回を除きいずれもハイブリッド形式）開催した。

・地域委員会（技術士試験、総務、事業、広報、社会活動、地方、防災、青年技術士交流、倫理）を計132回開催した。うち17回がオンライン及びメール会議。

・各委員会等において研修会の開催等CPD行事（31回）を中心に活動した。

##### ② 行事

・2023年6月22日(木)に第13回技術者倫理フォーラム（ハイブリッド形式）を開催した。

・2023年10月31日(火)に第24回北東3地域本部技術士交流研修会（ハイブリッド形式）を開催した

・2023年11月22日(水)に令和5年社会交流セミナーを開催した。

・2023年12月12日(火)に第35回防災セミナー(ハイブリッド形式)を開催した。

・2024年2月20日(火)に第43回地域産学官と技術士との合同セミナー(ハイブリッド形式)を開催した。

##### ③ その他

・技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。

・技術士の社会認知度向上、理科系教育現場の支援事業として、JABEE認定校3校、認定外大学・高専2校、道立高等学校2校、市立小学校2校にて出前授業を行った。

・北海道教育委員会「専門高校フューチャープロジェクト」課題研究授業「元町会館前広場活用プロジェクト」の支援として、道立工業高等学校を対象に出前授業を10回行った。

- ・理科授業を通じ、自然科学、科学技術の面白さ、奥深さ、大切さをわかりやすく教え、将来技術者となる人材の芽を育てる小学生への授業・実験を10回行った。
- ・北海道本部会報「コンサルタンツ北海道」を3回発行した。

## 2) 東北本部

2023年度は東北本部設立50周年を迎え50周年記念式典並びに50周年記念誌を作成した。  
また、2021年度から開催している「東日本大震災復興10年事業」の3年目を実施した。

### ① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月4日に92名が出席して第51回年次大会をオンライン併用で開催した。
- ・本部長を含め33名で構成される地域本部幹事による役員会を4回オンライン併用で開催した。
- ・政策事業、広報、CPD、防災、青年技術士交流、倫理研究、ITS研究、男女共同参画推進、ふくしま未来委員会の9委員会では、それぞれ年1～12回の委員会を開催した。

### ② 行事

- ・東北本部をはじめとする6専門部会及び9委員会が、研修会・見学会等のCPD行事を感染予防対策にて25回開催した。
- ・2023年4月20日(木)令和4年度技術士第一次・第二次試験合格者祝賀研修会をオンライン併用で開催した。
- ・2023年5月30日(火)に日本技術士会東北本部設立50周年記念式典をオンライン併用で開催した。
- ・2023年10月20日(金)に第43回地域産学官と技術士との合同セミナーを山形県でオンライン併用で開催した。
- ・2023年10月27日(金)に東日本大震災復興10年事業(2023事業)を福島県でオンライン併用で開催した。

### ③ その他

- ・技術士第一次試験及び第二次試験の宮城会場における実施を支援した。
- ・東北本部会報「技術士東北ーガイヤパラダイムー」を9月と1月の2回発行した。

## 2)-1 東北本部 青森県支部

### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会を2023.6.24に開催した（参加者47名）。
- ・支部長を含め20名で構成される役員による支部役員会を3回開催した。

### ② 行事

- ・CPD研修会を主催で2回実施した。(6/24, 12/23)
- ・共催(9/28)で1回、協賛(8/4)で1回の研修会を実施した。
- ・見学会を主催で1回実施した。(12/1)

### ③ その他

- ・青森大学の「八甲田山新湯再生プロジェクト」に関して、2023年度は8月29日～8月31日の合宿に幹事2名が3日間参加して技術支援を行い、新湯への給水開通の目標を達成することができた。大学生等との交流を進めるとともに若い世代にも技術士の役割を周知する機会となった。
- ・2023年8月19日平川市少年少女発明クラブにおいて小中学生に向けた講話（題目Ⅰ：技術士ってどんな人？、題目Ⅱ：海洋ごみってなあに？）を行い、子供たちに技術士を知ってもらう機会とした。

- ・2023年度青森県支部会報「技術士」を2023年12月に530部発行した。

## 2)-2 東北本部 岩手県支部

岩手県支部では、次の方針により継続的に活動を展開している。

- ◇自らの資質を向上させるよう、社会の変化と今後の動向を的確にとらえ技術の研鑽に継続して取り組む。
- ◇岩手県支部の総合力を向上させるよう、支部活動を通じて会員相互の連携を強化する。
- ◇社会・地域により一層の貢献ができるよう、公益的な活動や他機関との協働を進める。
- ◇技術士活動の継続的な発展が図れるよう、あらゆる場で若い技術者の育成を心がける。

### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- 年次大会：2023年7月1日(土) 支部会員41名の本人出席により年次大会を開催した。
- 役員会：年間6回開催し、事業計画や技術士相互の連携強化等について協議した。
- 委員会：総務、企画、広報、技術の各委員会では、活動に合わせた会議等を随時開催した。

### ②行事

- 支部主催の講演会を3回、各研究会主催の現場研修会等を11回開催した。

### ③その他

- 岩手県主催の「いわてまるごと科学・情報館」に協賛企業による展示・体験コーナーへの出展を行った。
- 岩手県宮古土木センターにおけるBIM/CIM研修会において、岩手県支部建設ICT生産システム研究会会員が講師を務めた。

## 2)-3 東北本部 宮城県支部

### (1) 総務企画委員会

- ①各種委員会活動の連携調整、イベント開催の企画・調整
  - ・新型コロナ化ではあったが、Web併用方式の導入により、例年どおり活動できた。
  - ・東北本部政策事業委員会に宮城県支部委員として参画した。
- ②関係機関及び地方自治体と調整し、活動の場を創出する
  - ・宮城県との防災協定による2023年度の要請はなかった。
- ③会員の把握、未加入技術士の会員加入促進（東北本部との連携）
  - ・年度初めに統括本部のHPにて確認した。
  - ・新加入をお願いした技術者はいなかった。

### (2) 広報委員会

- ①宮城県支部ホームページの維持管理
  - ・トップページの大幅リニューアル
- ②G A I Aへの投稿依頼

### (3) 支部における年次大会（全体会合）・役員会・各委員会活動

- ・令和5年度第12回宮城県支部年次大会について、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上でせんだいメディアテークにて開催した。
- ・支部長を含め24名で構成される役員による支部役員会は5回（メール会議2回を含む）を開催した。
- ・防災委員会、環境委員会、技術委員会、豊年技術士懇談会は、研修会、講習会、見学会

等の CPD 行事を企画実施した。

- ・環境委員会が相互の研修及び意見交換会を 7 回開催した。

#### 2)-4 東北本部 秋田県支部

##### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会 令和 5 年 7 月 7 日（金）14:00～ 参加者 36 名
- ・支部役員会を 3 回開催
- ・企画広報委員会は支部の活動報告を「GAIA」へ投稿

##### ② 行事

- ・秋田県支部主催の CPD 研修会を 4 回開催した

##### ③ その他

- ・秋田県立大学、聖霊女子短期大学、発酵カレッジ等にて技術士制度についての啓発を行っている（塚本研一氏）。

#### 2)-5 東北本部 山形県支部

##### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・令和 5 年 7 月 7 日に、令和 5 年度山形県支部年次大会を開催した。
- ・支部長を含め 20 名で構成する役員による支部役員会を 4 回開催した。
- ・総務委員会は、年次大会の準備、運営を行った。
- ・広報委員会は、山形県支部 HP の更新、GAIA 原稿、各講座、現場研修会、年次大会等の報告原稿作成を行ったほか、「技術士インタビュー」の成果を取りまとめ配信した。
- ・技術委員会は、会員の技術力の向上維持並びに県内の技術者の資質向上を目的に、7 月 7 日に年次大会の基調講演を実施したほか、11 月 17 日に現場研修会を開催した。
- ・倫理委員会は、「技術者倫理ワークショップ」を 1 回開催した。
- ・社会学習委員会は、建設産業従事者の減少が顕著となっている中で、次世代を担う子供たちたちに科学技術の原理や面白さを説明し、「土木」、「防災」に関心を持ってもらうことを目的として、地域の小中学校等を対象とした出前授業を実施しており、令和 5 年度は 6 回実施した。
- ・「産学官と技術士との合同セミナー(山形)」の実行委員会を運営し、10 月 20 日にセミナーを開催した。

##### ② 行事

- ・支部年次大会時の基調講演の他、産学官と技術士との合同セミナー、現場研修会等の行事を計 4 回開催した。

##### ③ その他

- ・7 月 13 日～14 日に鶴岡工業高等専門学校専攻科の『実践的デザイン工学演習』に講師 2 名を派遣した。
- ・9 月 12 日に(一社)山形県建設業協会主催の『一級土木施工管理技術検定試験(二次)受験準備講習会』に講師 4 名を派遣した。

#### 2)-6 東北本部 福島県支部

技術の研鑽および技術士会の PR を念頭に置き、CPD 研修会および技術委員会、広報委員会などの活動を行った。

##### ① 年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・2023 年 6 月 29 日に第 12 回年次大会を開催した（40 名参加）、懇親会も実施した。

- ・役員会は3回、広報委員会は3回、CPD研修委員会は4回、技術委員会は3回、東日本大震災復興10年事業準備委員会は3回、開催した
- ・東日本大震災復興10年事業シンポジウムを2023年10月27日に開催した。

## ② 年間行事

- ・CPD研修会を4回開催した(2023年6月, 8月, 9月, 10月)。
- ・ITS研究委員会と福島県支部の合同オンラインセミナーを1回開催した(2023年4月)。
- ・中学校出前授業を1回開催した(2023年11月)。対象者数30名。
- ・機関誌「たくみ24号」を発刊した(2024年3月)。

## ③ その他

- ・小学5年生を対象に自然環境学習を行った(2023年6月, 9月)。生徒数50名。
- ・ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会が開催する資格ふくしまME「基礎コース」「防災コース」「保全コース」の講義および現場実習に伴い、2023年6~12月の期間で講師7名を派遣した。
- ・京都技術士会主催の「子ども理科実験教室」にスタッフとして協力した(2023年11月, 技術士7名)。

### 3) 北陸本部

北陸本部では、石川県支部の設立があり新たな体制での活動であった。また、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、会議・講習会・研修会などの事業をほぼ平常通りの様式で進めることができた。なお、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の影響で、「地域産学官と技術士合同セミナー」の開催を次年度に延期することとした。

#### ① 地域本部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、6月に金沢で開催し、記念講演と2023年度地域表彰式も併せて実施した。
- ・役員会は、WEB会議形式で1回、対面会議により2回の計3回を開催した。
- ・委員会は、教育広報委員会3回、ホームページ小委員会3回、青年技術士交流委員会4回、試験業務支援委員会1回、防災委員会1回開催した。

#### ② 行事

- ・年次大会の翌日に、現地見学会(金沢の伝統工芸の継承発展と文化振興を図るための施設)を開催した。
- ・日本海国土軸研究グループでは、11月に「日本海国土軸を活かした地方創生」をテーマとした講演会とパネルディスカッションを富山で開催した。また、3月には、地域産業の展開研究グループにより、見学会(大同工業株式会社、コマツ栗津工場)及び企業研鑽会を開催した。
- ・青年技術士交流委員会は、11月に「DXインフラツーリズム in 北陸」と題しDXに対する取り組みの発表を行った。また、3月には、「次世代を支えるAI技術 技術士の新たな役割」をテーマに講演会を開催した。
- ・防災委員会は、9月に新潟地区第1回防災講演会、11月に金沢で、第8回防災講演会「激甚化する大規模災害に備えて」をテーマとして講演会を開催した。
- ・合格者祝賀会(新潟会場)を4月に開催した。

#### 3)-1 北陸本部 富山県支部

今年度から新体制となり、支部活動の活性化を図るために、例年より多くの講演会を実施したほか、新たな取組として学生の理科離れ対策の一助として、中学校への出前講座を開催した。また、技術士の周知に向け、富山県内の高等教育機関(富山大学、富山県立大学)の学生に向

けた技術士制度の説明会を実施したほか、若手の技術士の交流会を実施し、技術士増加、会員増加に向けた取り組みを行った。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・2023年度年次大会を7月19日に開催し、合わせて講演会を実施した。
- ・支部役員会は、5月、8月、11月、2月に4回開催した。

② 行事

- ・2023年7月（年次大会時）に「第39回講演会」、11月9日に「第40回講演会」、1月31日に「第41回講演会」を開催した。
- ・定例の講演会とは別に、ミニ講演会として、短時間の講演会を9月に実施した。
- ・10月10日に「とやま若手技術士交流会」として、技術士による発表会を実施した。
- ・11月21日に富山県の後援を受け、「河川シミュレーションソフト iRIC 講習会」を実施した。
- ・5月26日に富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科の学生を対象に「技術士制度講習会」を実施した。
- ・11月9日（新入生向け）と1月31日（JABEE課程修了者向け）に富山大学都市デザイン学部 JABEE認定コース在学学生及び教員に対して、「JABEEの活用と技術士制度説明会」を開催した。

③ その他

- ・学生の理科離れ対策の一環として、技術士による出前講座を中学校で開催した。

3)-2 北陸本部 石川県支部

2023年度は、本支部設立の年であったため、8月5日に設立大会・記念講演会・祝賀会を開催した。

2024年2月には、第1回講演会の開催を予定していたが、1月1日に発災した「令和6年能登半島地震」の影響もあり、開催を見送ることとした。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・設立大会を8月5日に開催し、合わせて記念講演会と祝賀会を実施した。
- ・支部役員会は、委員会と合同会議として、7月、11月、3月に3回開催した。

② 行事

- ・8月5日（設立大会時）に「記念講演会」を開催した。
- ・6月8日、15日、22日、29日、7月6日に、石川工業高等専門学校の学生を対象に「技術者倫理の授業」を4回、「技術士制度説明会と合格体験談」を1回実施した。
- ・10月12日、19日に、石川工業高等専門学校の学生を対象に「橋梁点検授業支援」を実施した。

③ その他

- ・事業委員会が中心となり、石川県支部のホームページを構築した。

4) 中部本部

2023年度は、2022年度と同様に、外部への認知度向上や設定した事業展開の基本方針を踏まえて、中部本部傘下四県支部、委員会そして部会の活性化を目的とした事業展開を推し進めた。ここ数年間コロナ感染予防対策下で蓄積されたWEB利用技術も向上し、さらにハイブリッド方式（対面+WEB）での会議、セミナーも取り入れられた。また11月には名古屋で全国大会が開催され、その準備、運営に叡知を結集し、無事成果を得ることができた。

① 年次大会・役員会・委員会活動

- ・第12回年次大会は、7月22日に対面で開催した。

- ・本部長を含む 40 名で構成された中部本部役員会を 6 回開催した。
- ・委員会は、倫理委員会 11 回、総務委員会 6 回、企画委員会 8 回、CPD 委員会 6 回、修習技術者支援委員会 5 回、青年技術士交流委員会 7 回、独立技術士交流委員会 6 回、広報委員会 9 回、活用促進委員会 6 回、PL 実践研究小委員会 12 回、防災支援小委員会 4 回、理科支援小委員会 4 回、試験業務支援委員会 4 回開催。以上、計 85 回開催した。

## ② 行事

- ・CPD 委員会担当のセミナーは夏季、秋季、冬季、春季の 4 回開催。講師・テーマ選定は、CPD 委員会で検討し決定した。春季講演会は、「技術士研究・業績発表会」とした。
- ・修習技術者支援委員会による「中部本部修習技術者研究業績発表会」を 2 月に実施した。
- ・企画委員会は、技術士第一次・第二次試験の合同合格者説明会を 5 月 27 日に対面で実施した。
- ・社会貢献(防災支援小)委員会、建設部会の講演会は 10 月に開催した。

以上を含め、委員会、部会による講演会は 31 回、見学会 2 回(機械部会 1 回、青年 1 回)を実施した。

## ③ その他

- ・理科支援小委員会は、理科実験授業研究会を 4 回開催。小・中学校での特別授業を 25 回実施した。

- ・外部依頼対応

技術士紹介依頼 9 件、指導技術士紹介依頼 0 件、人材紹介依頼 0 件

- ・登録グループとして、「よろず科学技術相談所」は、9 回の定例会を開催し 8 件の技術相談に応じた。

・登録グループ「倫理実践力開発普及会」は、3 回の例会を開催するとともに、内部プロジェクトチームの活動により、大学・高専の技術者倫理教育を継続。新たに増えたクラスに、育成した講師で対応。テクノロジーカフェも定期的に開催している。自由闊達な意見交換を行なう議論場を 4 回開催した。

- ・登録グループ「社会実装研究会」の例会(ワークショップ)を行い、株式会社 BIPROGY および国立大学法人名古屋大学と共同で、社会実装について議論。社会課題の解決策のアイデア創出及びその手法を学んだ。

## 4)-1 中部本部 愛知県支部

11 月 17~20 日に名古屋国際会議場で第 49 回技術士全国大会(愛知・中部)が行われた。その準備や運営は中部本部の全国大会実行委員会組織にて進めたが、これに対し支部としても全力を注ぎ込んで取り組んだ。全国各地から 500 名を超える技術士会員らを迎え、式典、記念講演、分科会、専門会議・連絡会議、展示会、ウェルカムパーティ、大交流パーティ、ツアーなど数多くのイベントを実施した。これらを通じて得たものは多く、高レベルの自己研鑽だけでなく人脈ネットワークの拡大、規模の大きなイベントの企画運営ノウハウなどは今後の支部運営を一回りレベルアップさせられるという手応えを得た。

支部として実施した活動は決して多くはないが、役員会、委員会、年次大会、例会、ワーキンググループ、防災支援活動などを実施した。Web と対面の両者で実施するいわゆるハイブリッド方式はほぼ定着したが、発信力強化やそれに伴う例会などの参加者数の拡大などは今後の課題と感じた。

### ① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・支部役員会を 6 回開催、社会貢献委員会を 1 回開催、防災委員会を 4 回開催した。

### ② 行事

- ・支部年次大会を開催した。
- ・企画研修委員会による業績発表会を開催した。
- ・防災委員会は、中部本部建設部会主催及び中部本部防災支援小委員会と共催で、講演会を1回開催した。また南知多町職員を対象に町村災害支援（施術講習会）を2回開催した。

③ その他

- ・第49回技術士全国大会に向けた準備や運営の取り組みを精力的に実施した。
- ・食問題研究会：食に関わる問題の研究及び自己研鑽を11回実施した。
- ・企業活動研究会：環境・品質・安全とISO国際規格など企業活動に関する諸問題の研究を11回実施した。
- ・わいがやフォーラム：地域・中小企業支援、技術者の技術テーマにつき議論し12回実施
- ・県下の町村の災害支援として技術講習会を2回実施した。

4)-2 中部本部 岐阜県支部

前年度に引き続き、組織と技術士の認知度を上げることを目標に活動をしてきた。社会に開かれた技術士活動の見える化を心掛けて、幅広い分野の講師による講演会の企画・開催を行った。

岐阜県支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、コロナ感染防止対策を図りつつ、会場とWEBのハイブリットで行った。
- ・役員会は6回行った。また、各委員会を同時開催で実施した。
- ・全国大会（愛知・中部）の実行委員会、事務局、各種委員会に委員を派遣し協力した。

① 行事

・講演会活動を年間6回、会場開催とWEBのハイブリットにて行った。見学会はコロナ禍のため中止とし、次年度に向けて再度計画中

② その他

- ・岐阜県士業連絡協議会の役員会に参加した。
- ・士業連絡協議会の懇親ゴルフ大会に2名参加した。
- ・士業連絡協議会主催の何でも相談会に相談員として参加した。
- ・中小企業支援に関する意見交換会～中小企業における弁護士の活用場面～in 岐阜 に参加
- ・弁理士知的財産セミナー新春交歓会に参加した。
- ・岐阜県DXコンソーシアム総会に参加した。
- ・テクノプラザ立地企業等連絡交流会設立大会に参加した。
- ・岐阜県航空宇宙関連企業新ビジネス展開支援事業費助成金審査委員会委員へ派遣した。

4)-3 中部本部 三重県支部

三重県支部は、以下の基本方針の下、会員と社会の皆様方に喜んでいただける会を目指しています。2023年度は以下の行事を主催しました。

【三重県支部の基本方針】

- ✓ 会員のため、そして社会のための会を創ります。
- ✓ 明るく楽しく役に立つ会を創ります。
- ✓ ステークホルダーの皆様方とウィンウィンを実現します。

【三重県支部主催行事】

- 年次大会：年1回（2023/6/17）
- 倫理セミナー：年1回（2023/4/7：ウェブ開催）
- 技術士と三重大学の先生によるセミナー：年3回（2023/6/17、2024/10/8、2024/1/6）

- みえテクノロジーカフェ (at MG-YOKKAICHI/一般参加あり) : 年 4 回
- 見学会 (トンネル工事 2 箇所) : 年 1 回 (2024/11/9)
- 会報みえ発行 (三重県支部の会員向け) : 適宜発行

#### 4)-4 中部本部 静岡県支部

前年度に引き続き、技術士のアピールを主体として運営してきた。コロナ禍が明けても会員の皆様の利便性を考慮し、講演会は対面式とオンライン同時配信するハイブリッド講演会を開催してきた。さらに、静岡県支部ホームページをリニューアルし、技術士会からの情報発信力を強める。(3月末予定)

##### ① 年次大会 (全体会合)・役員会

- ・年次大会は6月3日(土)に会場+オンラインのハイブリッドで開催した。
- ・支部長以下役員による支部役員会を会場およびオンラインのハイブリッドで7回開催した。

##### ② 行事

- ・講演会(例会)を5回(ハイブリッド方式)開催した。
- ・見学会を1回開催した。
- ・合格者説明会は6月24日(土)に開催、1次試験合格者1名、2次試験合格者4名が参加した。

##### ③ その他

- ・静岡県災害対策士業連絡会の理事会に参加し会員相互の交流の拡充とスキルの向上を図った。
- ・中部サイエンス・ネットワーク主催の防災・減災ワークショップを7月29日(土)静岡県地震防災センターにて実施、会員6名が参加した。
- ・テクノロジーカフェは6回開催した(オンライン)。
- ・会報「技術士しぞーか」は会員相互の情報共有と関連団体への周知の拡充を図るため4回発行した。

#### 5) 近畿本部

地方創生と地域産業発展に寄与できる技術の研鑽の「場」の提供を、活動方針の主目的として、オンライン活用を図りながら、以下の活動を実施した。

##### ① 地域本部における年次大会 (全体会合)・役員会・委員会活動

- ・6月17日(土)に、近畿本部2023年度年次大会をオンライン併用で開催した(参加者63名)。
- ・本部長を含む28名で構成される近畿本部役員会議を、原則奇数月の第二火曜日に、計6回オンライン併用で開催した。
- ・委員会は、総務・企画委員会6回、修習技術者支援委員会7回、研修委員会7回、青年技術士交流委員会5回、防災支援委員会7回、科学技術支援委員会3回、日中科学技術交流委員会3回、合格者祝賀会委員会3回、倫理委員会3回、協賛団体強化委員会6回、試験業務支援委員会2回、技術士活性化委員会15回、地域連携強化委員会11回、第43回地域産学官と技術士との合同セミナー(大阪)実行委員会15回、2024年度西日本大会(大阪)実行委員会6回、万博参画準備委員会7回開催。以上、合計102回開催した。

##### ② 行事

- ・2024年1月14日(日)に、防災・減災シンポジウム、第17回災害対策セミナー(～防災力向上を目指したまちづくりと防災技術～)をオンライン併用で開催した(参加者110名)。
- ・2024年2月1日(木)に、第9回近畿本部協賛団体特別セミナー(「技術士が考えるAI時

代の働き方と規制)」をオンライン併用で開催した（参加者 86 名）。

- ・2024 年 2 月 10 日(土)に、第 43 回地域産学官と技術士との合同セミナー（大阪）（「イノベーションによる社会課題の解決ー地域企業の付加価値向上へのアプローチ」）を開催した（参加者 98 名）。
- ・2024 年 2 月 17 日(土)に、近畿本部倫理シンポジウム 2024（「現代社会のリスクマネジメントと技術者倫理」）をオンライン併用で開催した（参加者 182 名）。

③ その他

- ・技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。
- ・近畿本部の広報誌「きんき」を 6 回発行した。

5)-1 近畿本部 兵庫県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7 月 2 日に 2023 年度年次大会および年次大会記念講演を開催した。
- ・役員会は Web 会議を併用して 5 回開催した。
- ・広報誌編集委員会 6 回（内 Web 会議 6 回）、科学技術支援委員会 6 回、総務委員会 2 回の合計 14 回開催した。NPO 法人兵庫県技術士会との有志幹部会合を 2 回開催した。
- ・科学技術支援委員会による小学校への特別授業を 12 回（授業のコマ数 40）実施した。
- ・防災支援委員会による小学校への特別授業 2 回（授業のコマ数 16）実施した。
- ・毎月 1 日に安否確認訓練を実施した。

② 行事

- ・県支部主催 CPD 講座を 7 回開催した。内 3 回は現場視察を行なった。
- ・2023 年 9 月 7・8 日に「国際フロンティア産業メッセ」（主催：国際フロンティア産業メッセ実行委員会）に近畿本部技術士活性化委員会とともに出展及び会場対応をした。
- ・2024 年 1 月 14 日に近畿本部主催、兵庫県支部協力で「第 17 回災害対策セミナー」を開催した。

③ その他

兵庫県支部の広報誌「支部だより」の第 21 号を 5 月 1 日、第 22 号を 9 月 1 日、第 23 号を 2024 年 1 月 1 日に発行した。

6) 中国本部

① 地域本部における年次大会・役員会・委員会・部会活動

- ・7 月 8 日(土)に年次大会を、会員 939 名のうち 172 名が参加して集合形式とオンラインのハイブリッド方式で開催した。
- ・35 名で構成される中国本部役員会を集合形式とオンラインのハイブリッド方式で 5 回開催した。
- ・部会活動の活性化による会員拡大を目的に、全 8 部会のうち建設部会は年 2 回、その他応用理学部会を除く 6 部会は年 1 回の講演会を集合形式とオンラインのハイブリッド方式で開催し、必要に応じて鳥取・島根・岡山・山口の 4 拠点で集合形式の Web 中継を行った。
- ・企画総務、事業、広報、試験支援、活用促進、防災、修習技術者支援、社会貢献、男女共同参画推進、倫理の 10 委員会では年 1~3 回程度の委員会を、また、青年技術士交流委員会は 1 回/月のペースで委員会（講演会を併催）を集合形式とオンラインのハイブリッド方式で開催した。防災委員会は、青崎公民館、皆賀公民館、翠町中学校・日浦中学校、薬師が丘連合町内会、廿日市市民活動センター、福山市川口小学校校区住民で防災教育を行った。
- ・本部長、副本部長、事務局長、事務局次長、事務局員等で構成された「事務局会議」を 9

回ハイブリッドで開催した。

② 行事

- ・4月22日(土)に2022年度技術士第二次試験合格者ガイダンス・記念講演会を開催した。参加者 147名のうち第一次試験合格者20名、第二次試験合格者は12名であった。
- ・委員会・部会がCPDの為に開催した講演会は76回を数え、延3787名の参加を得た。
- ・会員サービスの地域格差是正を目的に、統括本部の委員会・部会・研究会が主催する講演会を積極的にWeb中継し、計32回を数えた。また、見学会は3回開催し、延61名の参加を得た。
- ・社会貢献活動の一環として、社会貢献委員会は、広島県安芸太田町の小中学生を対象に理科教育を3回、クラレ科学教室を1回、青年技術士交流委員会は、五日市中央公民館で理科・工作教室「プログラミング教室」を開催した。

③ その他

- ・技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。
- ・中国本部会報を2回(5月・11月)発行した

6)-1 中国本部 鳥取県支部

鳥取県支部の活動は、4年間延期となっていた太平洋・瀬戸内・日本海縦断技術士会を10月に実施した。そのほか、鳥取県から依頼された防災士養成研修の講師派遣、鳥取環境大学での女性技術士の講演など実施した。

① 地域本部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・2023年7月1日に年次大会を開催した。
- ・支部長を含め15名で構成される役員会議を7回開催した。
- ・地域活動として県主催の防災士養成講座への講師派遣。

② 行事

- ・2022年度 技術士第一次・二次試験合格セミナーと合格者祝賀会を5月20日に開催した
- ・修習等セミナーを2023年4月9日、2024年3月31日に開催した
- ・太平洋・瀬戸内・日本海縦断技術士会を10月21日に開催した

③ その他

- ・6/27 鳥取大学技術者倫理(鳥取市) 技術士3名派遣 研修参加者100名
- ・9/10 とっとり防災フェスタ(鳥取市) 技術士11名派遣
- ・10/15 自主防災活動アドバイザー(鳥取市) 技術士1名派遣 研修参加者31名
- ・11/12 防災士養成講座(鳥取市) 技術士7名派遣 研修参加者50名
- ・11/13 大山町東坪地区防災学習 技術士5名派遣 地元住民35名
- ・11/26 防災士養成講座(倉吉市) 技術士7名派遣 研修参加者56名
- ・12/3 防災士養成講座(米子市) 技術士4名派遣 研修参加者71名
- ・12/25 公立鳥取環境大学キャリア教育(鳥取市) 技術士3名講演 学生120名

6)-2 中国本部 岡山県支部

今年度は、例年通りの行事について、感染対策をとりながら履行することができた。対面・オンライン併用方式の講演会実施にも取り組んだ。

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・7/22 会員30名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め19名で構成されている支部役員会を5回開催した。

② 行事

- ・CPD 研修会（防災講演会・現地見学会を含む）を6回開催した。
- ・技術士一次試験及び二次試験合格者の祝賀会を開催した。

③ その他

- ・津山工業高等専門学校との連携事業（キャリア教育支援・女子会後援会・先端技術特別講義）を行った。
- ・岡山理科大学との連携事業（技術士制度説明会・女子学生との交流会・出前授業）を行った。

6)-3 中国本部 山口県支部

集合型式に軸足を置きつつもオンライン型式を併用した行事に取り組んだ。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、7月29日に30名（会場参加22名、オンライン参加7名）が参加して、集合型式およびオンライン型式併用で開催し、続いて記念講演会を行った。
- ・支部長を含め18名で構成される役員による支部役員会を4回開催した。
- ・支部長、副支部長、事務局、参与で構成されるメンバーによる事務局会議を6回開催した。
- ・企画総務委員会・事業委員会および事務局は、山口県支部の行事開催の準備を行うとともに、役員会に諮る議案の検討を行った。
- ・広報委員会は、広報活動の企画・実施、ホームページによる情報提供を行った。
- ・防災委員会は、中国本部の防災委員会行事に参加するとともに、12月16日に県内の自然災害伝承碑探訪を行った。
- ・修習技術者支援委員会は、徳山工業高等専門学校主催のキャリア・デーに参加し、そこで技術士制度の説明および受験ガイダンスを行った。

② 行事

- ・6月3日にCPD行事（2022年度技術士第一次試験合格者ガイダンス兼技術士第二次試験合格者祝賀記念講演会）を、集合型式およびオンライン型式併用で開催した。（会員25名、会誌購読者1名、新合格者6名、合計32名）
- ・9月9日にCPD行事（2023年度第1回テクノ・サロン）を、集合型式およびオンライン型式併用で開催した。（会場参加19名、オンライン参加者17名、合計36名）
- ・1月27日にCPD行事（2023年度第2回テクノ・サロン）を、集合型式およびオンライン型式併用で開催した。（会場参加29名、オンライン参加者24名、合計53名）
- ・12月2日にテクニカル・ツアー（日本の伝統-微生物発酵食品の製造技術を巡る-）を、集合型式で開催した。（会場参加9名）

③ その他

- ・徳山工業高等専門学校との連携協定による実践活動として、技術士制度の普及および技術者育成を図る目的で3回の協議を行った。
- ・支部活動の更なる活性化のために中国本部からのCPD事業のWE B中継を13回行った。
- ・山口市大内地域において、8月2日に小学生対象（11名参加）で青年部6名が「子ども科学体験教室（ポンポン船を作ろう）」を実施した。また、防府市小野小学校においても、9月15日に小学生対象（17名参加）で青年部4名（別途非会員3名、計7名）が「子ども科学体験教室（ポンポン船を作ろう）」を実施した。
- ・徳山工業高等専門学校および宇部工業高等専門学校に対して「倫理教育支援」を実施した。

7) 四国本部

四国本部ビジョンで掲げる“4つの事業方針”に基づき、次の事業を実施した。

①地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月10日に高松市で正会員422名のうち84名が出席して年次大会を開催した。
- ・本部長を含め30名の幹事で構成される役員会を4回開催した。
- ・総務（正副委員長会議）、事業、広報、修習技術者支援、防災、青年技術士交流、試験業務支援の7常設委員会及び倫理、男女共同参画推進の2小委員会では、それぞれ数回の委員会（WEB会議、勉強会を含む）を開催した。
- ・各委員会が講演会・見学会の開催等のCPD行事を中心に活動を行うと共に、社会貢献活動にも取り組んだ。

②行事

- ・1月23日に高松市で第43回地域産学官と技術士との合同セミナーを開催した。
- ・12月1～2日に徳島市で例会（忘年会、見学会併催）を開催した。
- ・CPDセミナー・公開講座及び修習技術者支援セミナー、防災セミナー、青年技術士交流会を各県持ち回りで開催した。
- ・防災見学会・意見交換会及び技術者倫理セミナーを高知県で開催した。
- ・男女共同参画推進連絡会議「四国なでしこ技術サロン」を松山市で開催した。
- ・令和4年度技術士第二次試験合格者祝賀会を四国4県の会場で開催した。
- ・令和5年度技術士第一次試験合格者祝賀会を高知市で開催した。
- ・統括本部の委員会が主催する講演会等にWEB中継で参加した。

③その他

- ・技術士試験（香川会場）の実施を支援した。
- ・四国本部会報を2回発行した。
- ・JABEE認定課程教員・学生に対する「技術士制度説明会」を徳島大学理工学部、高知工科大学、愛媛大学農学部、香川大学で実施した。
- ・香川県教育委員会が実施する学校防災アドバイザー派遣事業に協力した。
- ・香川高等専門学校との包括連携・協力に関する協定に基づき「学生のキャリア支援のための出前授業」を実施した。
- ・香川大学等が主催する児童生徒向けの「科学体験フェスティバル」にブース出展した。
- ・愛媛県専修学校各種学校連合会主催の「お仕事フェスタ」職業ガイダンスブースに参加した。

7)-1 四国本部 高知県支部

①支部における年次大会（全体会合）・役員会活動

- ・6月30日に高知会館にて、会員47名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め17名の幹事で構成される役員会を5回開催した

②行事

- ・四国本部と共催し、CPDセミナー・公開講座、修習技術者支援セミナー、防災セミナー、青年技術士交流会、技術者倫理セミナー及び防災見学会・意見交換会を開催した。
- ・CPDセミナー・公開講座に合わせ、令和4年度技術士第二次試験合格者祝賀会を開催した。
- ・修習技術者支援セミナーに合わせ、令和5年度技術士第一次試験合格者祝賀会を開催した。
- ・太平洋・瀬戸内海・日本海縦断5県技術士交流会（鳥取）を共催した。

③その他

- ・高知県支部会報「PEこうち第3号」を発行した。

## 8) 九州本部

新型コロナウイルス感染症の扱いが5月に感染症第5類へ移行したことに伴い、オンラインシステムによる会議、講演会、発表参加など習熟が進み、対面型と併用する方式が定着し活動が徐々に復活してきた。

組織面では、新たに沖縄県を所管することになり、2023年度から沖縄県選出の幹事も加わった。

### ① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、人数制限の会場とオンライン方式を併用し、配布資料もHPに公開とした。
- ・役員と支部長が参加する合同役員会を3回（7月、11月、4月（予定））、県支部長会議を1回（9月）、三役会議を3回（6月、1月、2月）全てオンライン併用で開催した。これに伴う事務局会議、打合せ等を49回開いた。

- ・総務企画・広報・地域産業支援・研修・倫理・防災・青年技術士交流、北九州地区支部支援、試験業務支援の9委員会、みどり・建設・環境・ものづくりの4部会で会議等47回、講演会25回、見学会4回を開催した。

- ・2025年度の全国大会（熊本）に向けて実行委員会を設置し、県支部も含めて日時、会場の予約など準備を進めた。

### ② 行事

- ・研修委員会が中心となって10月第43地域産学官と技術士との合同セミナー（福岡）を開催した。このほか、例年のCPD4回をオンライン併用で開催した。

- ・倫理委員会では、11月九州本部・中国本部共同倫理イベントを開催した。

- ・防災委員会では、2021年から実施の小学生防災教育を今回6年生対象（教師、父兄含み131名）に体験型学習を行った。7月豪雨の久留米市内被災者相談会3か所へ参加し被災者への助言を行った。熊本では県支部と協力し「先進建設・防災・減災技術フェア-熊本2023」へブース展示、論文発表など対外的活動を進めた。

- ・青年技術士会では、合格者祝賀会、大学・高専の4学校で技術士制度の講義、説明会を実施した。また地図をテーマに北九州市で夏休み小学生・中学生自由研究教室を開いた。

- ・北九州地区では8月を除く毎月、着実なCPD（12月は公開講演会）を開催し研鑽に努めた。

### ③ その他

- ・そのほかの委員会、部会でもコロナに対応したWEB会議、会場設定の工夫等により、講演会、見学会の開催、広報発行、HP更新、産業技術イノベーションデーへの出展、試験業務支援などほぼ例年の活動を実施した。

## 8)-1 九州本部 大分県支部

### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月24日に年次報告会とCPD研修会(1unit：出席者41名)をホルトホールにて開催した。同日技術士試験一次、二次合格合同祝賀会を実施した。

- ・大分県支部役員会を5月16日（コンパルホール）、6月24日、1月27日（ホルトホール大分）に3回開催した。

- ・CPD担当準備会を11月17日に行った。

- ・倫理委員会教育啓発タスクチームの大分メンバーの意見交換会を4月21日、5月30日、6月30日に行った。

### ② 行事

- ・6月3日に2023年度第1回CPD研修会(6unit：出席者172名)を、9月2日に2023年度第2回CPD研修会(6unit：出席者145名)を、11月18日に2023年度第3回CPD研修会

(6unit：出席者 130 名)を、WEB 型と集合型を併用して大分県教育会館にて開催した。

- ・例年 10 月半ばに開催していた現地見学会は行わなかった。
- ・1 月 27 日に年次中間報告会と CPD 研修会(1unit：出席者 44 名)をホルトホール大分で開催した。

#### 8)-2 九州本部 鹿児島県支部

##### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・5 月 20 日：年次大会を開催した。
- ・支部役員会を 4 月 6 日、6 月 1 日、7 月 21 日、11 月 14 日、2024 年 2 月 10 日に開催した。
- ・業務企画委員会を 10 月 21 日、防災委員会を 9 月 19 日、研修委員会を 12 月 7 日に開催した。

##### ② 行事

- ・5 月 20 日：第 37 回 CPD 講演会（出席者 38 名）  
技術士第一次試験・第二次試験合格祝賀会開催（出席者 13 名）
- ・7 月 15 日：第 38 回 CPD 講演会（出席者 29 名）
- ・9 月 30 日：第 39 回 CPD 講演会（出席者 31 名）
- ・11 月 5 日：第 40 回 CPD 講演会（出席者 32 名）
- ・2024 年 2 月 10 日：第 41 回 CPD 講演会（出席者 36 名）を開催した。

##### ③ その他

- ・4 月 2 日：技術士第二次試験受験申込書を配布し、併せて郵送配布も実施した。
- ・5 月 11 日：令和 3 年度技術士第二次試験合格者を中心に 55 名に対し入会案内を行った。
- ・6 月 10 日：技術士第一次試験受験申込書を配布し、併せて郵送配布も実施した。
- ・6 月 13 日：鹿児島大学農学部において「技術士及び技術士制度説明会」を実施し（参加者 32 名）、併せて技術士第一次試験受験申込書を配布した。
- ・11 月 21 日：鹿児島大学工学部において九州本部青年技術士交流委員会主催の「技術士及び技術士試験制度」説明会に協力参加した。
- ・12 月 18 日：第一工科大学工学部（霧島市）において九州本部青年技術士交流委員会主催の「技術士及び技術士試験制度」説明会に協力参加した。
- ・2024 年 3 月 31 日：技術士第二次試験受験申込書を配布し、併せて郵送配布も実施した。
- ・支部独自の「鹿児島県支部だより」（第 21 号～第 24 号）を会員に配信した。

#### 8)-3 九州本部 宮崎県支部

##### ① 県支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6 月 3 日年次大会と技術士第一次、二次試験合格祝賀会を対面集合方式で開催した。（出席者 26 名）
- ・支部役員会を 5 回(内 3 回はWEB 方式)開催した。

##### ② 行事

- ・第 1 回講習会(CPD) (9 月 9 日) (出席者 22 名)、第 2 回講習会(CPD) (11 月 18 日) (出席者 22 名) 第 3 回講習会(CPD) (2 月 17 日) (出席者 21 名) を対面集合方式にて開催した。

##### ③ その他

- ・令和 5 年度技術士第二次試験願書配布及び技術士制度等説明会を開催した。(4 月 1 日)
- ・令和 5 年 11 月に県内各地で開催された宮崎県土木の日実行委員会主催の「土木の日」各種行事を通じて、技術士会の社会貢献、知名度向上を図った。

8)-4 九州本部 佐賀県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・年次大会

日時：令和5年5月27日（土）13時～

場所：メートプラザ佐賀 大会議室 正会員12名（内委任状3名）で実施した。

・役員会を6回開催した。

② 行事

・2023年度第1回CPD（技術懇話会）：5月27日（土）20名

・2023年度第2回CPD（技術懇話会）：11月16日（木）30名

③ その他

・広報活動 佐賀建設新聞新春特集号投稿（2024年1月1日）

公益社団法人 日本技術士会佐賀県支部支部長：テーマ「技術士の役割」

8)-5 九州本部 熊本県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・第10回の年次大会を、くまもと県民交流会館「パレア」で2023年6月10日開催した。

・技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会（合同）を、KKRホテル熊本で2023年6月10日に開催した。

・支部長を含めて11名で構成される役員による支部役員会をWEBにて3回開催した。

② 行事

・支部会員を主体としたCPDを6月10日、7月8日、10月14日、2月17日に開催した。

・熊本地震復興状況の現地研修会を、2023年12月8日に開催した。

・崇城大学（2024年1月25日）、熊本大学（2023年11月16日・11月20日）にて、技術士制度についての説明会を実施した。

・2023年11月21日～11月22日開催の「先進建設・防災減災フェア in 熊本」に出展した。

③ 熊本地震復興支援活動

・インフラの復旧・復興状況の広報活動を実施した。

8)-6 九州本部 長崎県支部

① 県支部における年次大会（全体会合）・役員会

・6月17日（土）、支部会員143名のうち35名が出席して年次大会を開催した。同日第一次・第二次試験合格者合同の祝賀会を開催した。

・幹事会を6回（4, 7, 8, 10, 12, 2月）開催した。

② 行事

・研修会4回のCPD行事を開催した。

③ その他

・2023年12月11日（月）長崎大学工学部において技術士3名による「技術士制度について」の講義を実施した。

## (5) 関東甲信地域の県支部の活動

本会の重要施策について円滑な実施を図ると共に、関東甲信地域における県支部相互の連絡協調及び県支部活動の活性化に資するため、支部長会議を開催した。各県支部での年次大会等の会合の回数、県支部における主な講演会等及び見学会は付属明細書を参照。

### 1) 神奈川県支部

役員会、委員会等はリモート(RE)、講演会はハイブリッド(HB)を基本として開催した。

#### ① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・第12回年次大会及び特別講演会(HB):7月27日波止場会館にて開催
- ・2024新年特別講演会(HB)及び賀詞交歓会(対面):1月25日波止場会館にて開催
- ・役員会および幹部会議、各11回開催(RE、一部対面)
- ・総務委員会(3小委員会合同)及び7小委員会、各11回開催(RE、一部対面)

#### ② 講演会

- ・テクニカルショーヨコハマ2024出展、ブースにてミニセミナー開催(対面):2月7~9日パシフィコヨコハマ
- ・震災対策技術展横浜出展及び講演会開催(本部防災支援委員会共同出展):2月8~9日パシフィコヨコハマ
- ・CPD講演会:CPD講座12回、テクノセミナー3回、情報交流の会5回、地域産業活性化研究会1回、MIX技術士交流会3回(対面)、技術士開業及び業務開拓研修会、初級、中級、実践コース各1回(対面)、計27回開催(対面以外はHB)
- ・技術士セミナー、技術士への道ガイダンス各1回開催(HB)
- ・夏休み理科教室、サイエンスカフェ等の理科支援活動9回実施(対面)

#### ③ 見学会:MIX技術士交流会にて「浮島処理センター&川崎エコ暮らし未来館」及び「昭和薬科大学薬用植物館」見学会2回開催

#### ④ その他

- ・ビジネスオーディション2024にて神奈川県支部賞を授与
- ・技術第一次/二次試験新合格者祝賀会:6月3日シルクセンター地下会議室にて開催(HB)
- ・技術士一次・二次試験神奈川試験会場の運営実施

### 2) 埼玉県支部

「技術の力で地域の発展に貢献」(支部紹介リーフレット表紙記載のスローガン)のありたい姿を目指して活動。

#### ① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・技術士試験合格者祝賀会:5月20日、新都心ビジネス交流プラザにて開催。祝辞、講演「技術者倫理事例に学ぶ技術士のあり方」、懇親会を実施。
- ・年次大会:7月20日、新都心ビジネス交流プラザにて開催。各委員会活動報告、新支部長挨拶、講演「XR・メタバースが切り拓くフロンティア」、懇親交流会を実施。
- ・技術士研究業績発表大会・新年会:1月6日、新都心ビジネス交流プラザにて開催。4名の技術士が発表後、新年会を実施。
- ・役員会:役員会を偶数月6回開催、議案・報告事項等を議論・決済、奇数月は支部長、委員長参加の幹部会を6回開催、計12回実施。
- ・委員会:5委員会で計56回開催、その他の会合(イベント準備等)を61回実施。

#### ② 行事(CPD講演会、見学会)

- ・CPD講演会を12回、見学会を2回開催。参加者は延べ389名。

### ③ その他

- ・技術士制度説明会：5月20日埼玉大学、25日ものづくり大学、29日東洋大学、11月6日立正大学、3月16日武蔵浦和コミュニティセンター、3月29日東洋大学にて実施。
- ・理科教室：7月23日越谷市中央市民会館、26日大宮北小学童保育所、8月6日国立女性教育会館、3月16日さいたま市ブラザーイーストにて開催。
- ・かわごえ産業フェスタ：11月11,12日出展、川越市内の過去と現在を3次元空間散策。
- ・さいしんコラボ産学官技術課題相談会：11月15日実施、4名が参加、5件の案件に対応。
- ・彩の国産業活性化交流会：11月24日新都心ビジネス交流プラザにて開催。特別講演「本当は怖い国際基準」、5件の支援技術紹介を実施。
- ・彩の国ビジネスアリーナ2024：1月17～31日（オンライン）、1月24,25日（リアル出展）46件のブース対応実施、内13件のコンタクト対応案件が得られた。
- ・支部活動の将来構想：「次の10年間の支部活動を考える」と題し、全員参加前提の意見交換会を1月21日、2月18日、3月10日の3回開催。2024年度以降の支部活動に反映すべく推進中。
- ・広報誌「彩の国技術士」を4月、10月2回発行。

### 4) 長野県支部

新型コロナウイルス感染症が落ち着いたため、リアル中心の会場集合方式や現地見学会により活動を行った。

#### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会を7月2日に開催し、前年度事業実績・会計決算、新年度事業計画・予算等を報告した。また、支部会員による技術発表会を始めて開催した。
- ・支部幹事による役員会を5回開催した。（うち3回は会議室集合とオンラインのハイブリット開催）
- ・今後のCPD行事に向けたハイブリット形式の検討会議を開催した。
- ・役員会以外は、メール等により情報・意見交換を行った。

#### ② 行事

- ・「技術士第一次・第二次試験合格記念CPD講演会」と「合格者交流会」を4月15日に会場集合方式により開催した。
- ・県下各地区（東信・北信・中信・南信）でのCPD研修会を4回開催した。（会場集合方式、現地見学会）
- ・日本技術士会建設部会と長野県支部合同見学会を8月25日にR元年発生「千曲川被災箇所」とS60年発生「地附山地すべり災害地」で開催した。
- ・JABEE認定校である国立長野高専で「技術資格セミナー」を9月27日に開催した。（講師：長野県支部幹事）また、「技術士説明会」を2月2日に開催した。（講師：長野高専OB/OG技術士）
- ・「工事監査（工事技術調査）」の会員登録希望者が12月18日に本部工事監査WGの面接へ参加した。

#### ③ その他

- ・支部会報第8号を1月に発行し、支部会員、関係機関等に配付した。

### 5) 千葉県支部

千葉県支部は、所属会員へのサービス向上と社会貢献を2本柱として活動を推進した。

#### ① 支部における年次大会・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、7月17日にハイブリット形式で開催、支部及び各委員会の活動状況、会計報告及び2023年度の計画について説明した。
- ・各種会合は、ハイブリット方式、若しくはオンラインにより実施。役員会12回、委員会は全体で79回開催した。
- ・ハイブリット若しくはオンラインでの会議や講演会がほぼ定着し、業務途中での参加や遠方からの参加など有効に機能している反面、対面での人的交流の機会が減少している。
- ・所属会員に対するアンケート結果から、人脈構築と拡大を狙い、交流会を2回開催し、好評であった。今後も継続する。
- ・防災支援活動は本部防災委員会、千葉県災害復興支援士業ネットワークとの連携活動を実施した。台風による水害に対して相談会に参加し、住民からの個別相談に対応した。また、防災教育の一環として船橋市民活動フェアにて寸劇を上演し、好評であった。
- ・科学教育支援として、青少年のための科学の祭典等に出展すると共に、中学・高校に対する出前講座を17回実施し、好評を得た。千葉大学主催の第17回高校生理科研究発表会に指導員として参画し、千葉大との連携を深めた。

## ② 講演会

- ・講演会はハイブリット若しくはオンライン方式で、21回実施した。
- ・技術士第一次、第二次試験合格者祝賀講演会及び祝賀会を6/3に実施した。
- ・防災講演会を千葉市の後援及び千葉県弁護士会との共催で、9月に実施した。

## ③ 見学会

- ・(株)ファソテックを訪問し、モノづくりのDX化及び医療への3D技術展開状況について見学した。

## 6) 茨城県支部

新型コロナウイルス感染が5類に移行された以降に、対面型の行事が可能となりハイブリット形式の行事になった。支部創立10周年の記念大会を最寄りのホテルにてハイブリット形式で実施した。

### ① 支部における役員会・委員会活動

- ・茨城県支部役員会を12回開催し、県支部の運営について協議を行った。
- ・講演会・見学会・各委員会等の会合を50回開催した。
- ・その他の行事等を40回開催した。

### ② 行事

- ・「2022年度技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会・講演会・交流会」(4月22日)を開催した。
- ・創立10周年記念大会(7月22日)及び新年講演会(1月27日)で講演会を開催した。  
コロナ感染の5類に移行後、対面で交流会を再開した
- ・「いばらきオープンテクノフォーラム」(12月15日)を開催し9団体のパネルを展示した。
- ・「技術士CPD講座」を3回、「いばらきIoTコ・ラボ勉強会」を3回、「見学会」を1回実施した。
- ・“現役若手世代”技術士CPD行事補助費(企画員会)を活用して第5回Wi-SE講演会・見学会(11月25日)を茨城空港にて開催した。

### ③ その他

- ・「茨城県支部創立10周年記念誌」を協賛、関連団体等に配布した。
- ・茨城県教育庁登録の「おもしろ理科先生」派遣講座に2回講師を派遣した。

- ・原子力科学館イベントに参加、土浦市内公民館・小学校の科学実験等を実施した。
- ・現代的課題対策講座『日本の科学技術が社会を変える』を5回開催した。
- ・霞ヶ浦環境科学センターの各種イベント、土浦市環境展等に出展した。
- ・地域貢献活動として、ひたちなかテクノセンターと茨城県中小企業団体中央会を訪問した。

## 7) 栃木県支部

会員のための CPD 研修、講演会等を対面+Web 方式で行うとともに、下記委員会活動を行った。

### ① 総務委員会

年次大会を6月10日に対面+Web方式により開催した。参加者24名（Web：1）  
支部長及び幹事15名で構成される役員会を10回開催した。

### ② 企画研修委員会

6月の年次大会に併せて、講演会（講師：栃木県産業労働観光部工業振興課長岡本栄二氏）、懇親会及び新合格者（1次・2次）歓迎会を開催した。7月期講演会（講師：田仲 R&D 技術事務所長田仲喜一郎氏）、8月期講演会（講師：栃木県河川課県土防災班長渡辺賢孝氏）、9月期講演会（講師：栃木県警察本部警備一課課長補佐警部植木典久氏）、10月期講演会（講師：東京電機大学名誉教授近津博文氏）、11月期科学技術講演会（講師：宇都宮大学農学部教授西山未真氏）、12月期講演会（講師：本部倫理委員会副委員長高橋俊和氏）を開催した。また、「技術士を志す方への情報提供講座」を2024年2月に、9月に南摩ダムの見学を開催した。

### ③ 広報委員会

支部活動や会員の投稿による会報を8月（会報19号）、1月（会報20号）に発刊した。また、会員と対外広報として支部ホームページの更新・管理を行った。

### ④ 企業支援委員会

栃木県工業振興課と協力・連携して中小企業の技術支援を行った。具体的には、企業支援活動ができる技術士名簿を作成し、アドバイザーとして派遣した。

### ⑤ 国際委員会

国立研究開発法人科学技術振興機構のさくらサイエンスプログラム事業を活用し、12月、浙江省から地方省職員等27名を招聘し、県内企業の見学や大学訪問、副知事表敬、県内技術士との交流を行った。第52回日韓技術士国際大会に会員がWEB方式で参加した。

### ⑥ 地域社会貢献委員会

- ・科学技術・理科教育小委員会では、サイエンスカフェ「わくわきどきどきサイエンス」を8月と10月の2回小学生を対象として「かんたん電池ミニカー教室を開催した。
- ・環境支援小委員会では、地域創生を目的とした「いちかい浮島プロジェクト」活動として6月にサシバの里めぐりイベントで「ミニ浮島ワークショップ」を出展した。  
9月に（旧）小貝中央小学校にて施工後4年目のモニタリング調査（植生・水質等）を行った。9月、宇都宮大学コラボレーションフェアで、浮島によるビオトープ化のポスターを掲示、県内の自治体の企画担当者との意見交換ができた。
- ・防災支援小委員会では年2回の関東甲信支部防災連絡会議において情報交換するとともに、県内土業関係団体との情報交換に参加した。（R5.6.27 県社協主催）。  
8月に「防災講演会」（R5.8.19）、3月 現場見学会を開催しスキルアップを図った。
- ・男女共同参画小委員会を立ちあげ、11月には栃木県内の女性の技術者、女性技術士に声を

かけ集まりを開催した。支部幹事会として来年度の活動計画を検討した。

8) 群馬県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月21日に群馬県支部全体会合（出席者17名）を開催した。
- ・群馬県支部役員会を隔月で6回開催し、重要事項の審議を行った。
- ・総務委員会、企画研修委員会、広報委員会を必要に応じて役員会開催と同時に実施した。

② 行事

- ・CPD講演会をWeb講演会として2回開催した。
- ・CPD講演会は、7月21日（29名が参加）、2024年2月16日（39名が参加）に開催した。
- ・見学会を10月17日に開催した。（17名が参加）群馬大学ベンチャー企業が開発したウッドチップブロック「GUD ブロックの施工事例見学と低速電動コミュニティバスの試乗とともに、これらの研究を進めている群馬大学理工学府の教授による講演を併せて実施した。

③ その他

- ・会報第24号を4月、第25号を8月、第26号を10月、第27号を2024年3月に発行した。

以上